

エチオピア国
ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画
終了時評価調査報告書

平成 18 年 6 月
(2006 年)

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部

序 文

国際協力機構は、エチオピア国政府からの日本国政府に対する技術協力の要請に基づき、平成 15 年 10 月から同国においてエチオピア国「ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画」を開始しました。

当機構は、本プロジェクトが活動を終えるのに先立ち、プロジェクトの成果を確認し、今後のプロジェクトに関する提言と教訓を得るべく、平成 18 年 6 月 4 日から 6 月 23 日まで、当機構地球環境部第一グループ長 勝田幸秀を団長とする終了時評価調査団を同国に派遣しました。

調査団は、エチオピア側評価団と共同で、本プロジェクトの実績、実施プロセス、評価 5 項目に関する情報を収集・分析し、評価結果を取りまとめ、調査に関するミニッツに署名しました。

本報告書は、今回の終了時評価調査の結果を取りまとめるとともに、今後の協力の更なる発展の指針となることを目的にしています。

終わりに、プロジェクトの実施にご協力とご支援を頂いた両国関係者の皆様に、心から感謝の意を表します。

平成 18 年 6 月

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部長 伊藤 隆文

目 次

序文

プロジェクト位置図

現地調査写真

略語表

評価調査結果要約表

第1章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-2-1 調査団員構成	1
1-2-2 調査期間	1
1-3 対象プロジェクトの概要	1
1-3-1 背景と概要	1
1-3-2 プロジェクトの内容	2

第2章 評価の方法

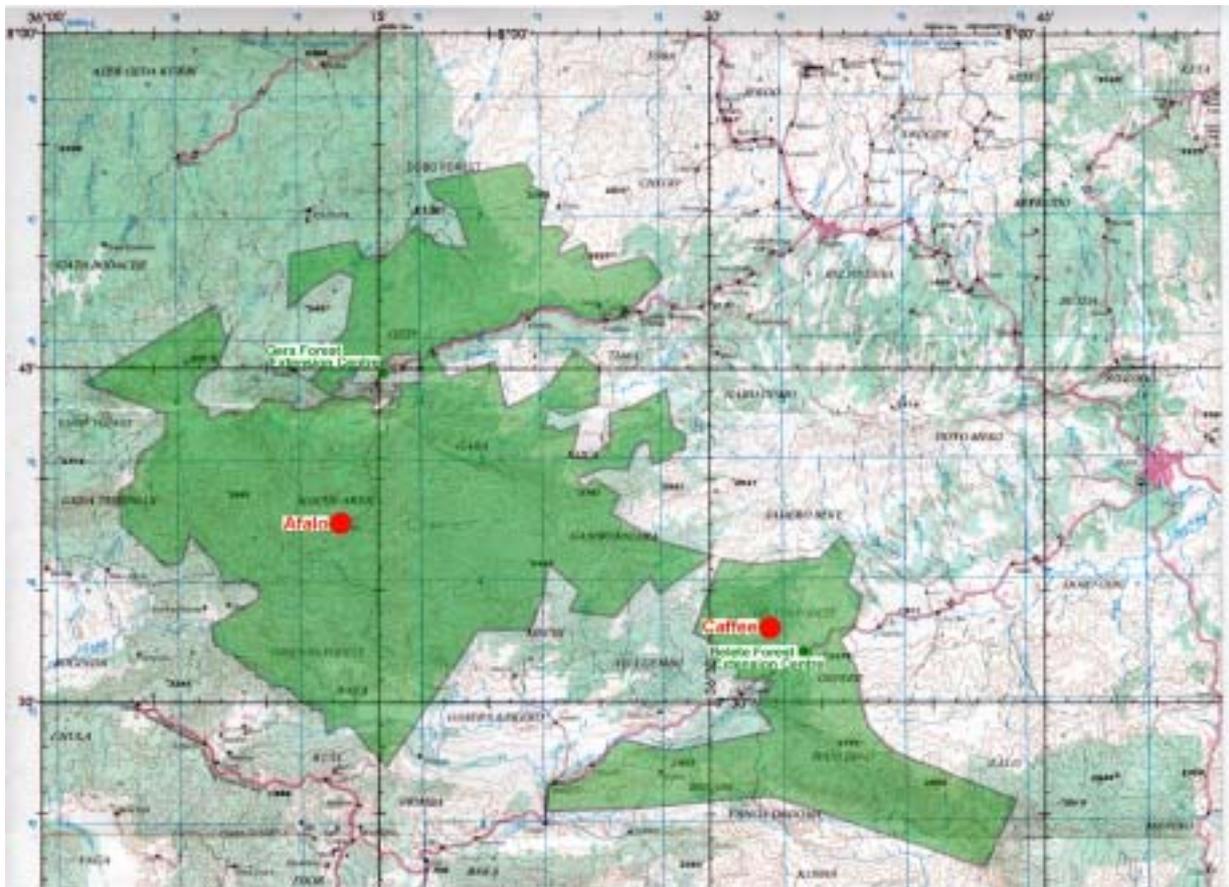
2-1 評価設問と評価手法	5
2-2 データ収集方法	6
2-2-1 質問票	6
2-2-2 面談及びインタビュー	6
2-2-3 現場調査	6
2-3 データ分析方法	6

第3章 プロジェクトの実績及び実施プロセス

3-1 投入実績	
3-1-1 日本側投入	7
3-1-2 エチオピア側投入	8
3-2 活動の実施状況	8
3-3 アウトプットの達成状況	11
3-4 プロジェクト目標の達成状況	14
3-5 上位目標の達成見込み	15
3-6 実施プロセスにおける特記事項	15

第4章	評価5項目における評価結果		
4-1	妥当性	17
4-2	有効性	17
4-3	効率性	17
4-4	インパクト	18
4-5	自立発展性	18
第5章	評価結果の結論	21
第6章	提言と教訓		
6-1	提言	21
6-1-1	プロジェクト終了時まで実施すべき事項	21
6-1-2	プロジェクト終了後に実施すべき事項	21
6-1-3	参加型森林管理面における課題	23
6-2	教訓	24
第7章	総括報告		
7-1	プロジェクトの目標達成状況	26
7-2	プロジェクトの自立発展性	26
7-3	フェーズ プロジェクトについて	26
附属資料：			
1.	調査日程	29
2.	主要面談者リスト	31
3.	合同評価報告書（ミニッツ）	33
4.	質問票	91

プロジェクト位置図



現地調査写真



プロジェクトへのインタビュー



森林管理組合による協議



アファロ小集落の遠望



改良型養蜂箱



ハンド・ポンプ付共用井戸



森林優先地域の境界を示す石柱



天然林内のコーヒー



参加型立体地形モデル



チャフェ周辺の遠望



製粉機（チャフェを含む大集落内に設置）



合同調整委員会



ミニッツ署名

略語表

ARDO	Agriculture and Rural Development Office	農業・村落開発事務所
C/P	Ethiopian counterpart personnel	カウンターパート
FMA	Forest Management Agreement	森林管理契約
GIS	Geographic Information System	地理情報システム
GPS	Global Positioning System	全地球測位システム
GTZ	Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit	ドイツ技術協力公社
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
LUPO	Land Use Planning in Oromiya Region	オロミア州土地利用計画
M/M	Minutes of Meeting	討議議事録
NGO	Nongovernmental Organization	非政府組織
OARDB	Oromiya Agriculture and Rural Development Bureau	オロミア州農業・村落開発局
OJT	On the Job Training	実地研修
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリクス
PFM	Participatory Forest Management	参加型森林管理
P-FMA	Provisional Forest Management Agreement	森林管理仮契約
PO	Plan of Operation	活動計画
P3DM	Participatory three-dimensional Model	参加型立体地形モデル
R/D	Record of Discussions	協議議事録
RFPA	Regional Forest Priority Area	州森林優先地域
TOR	Terms of Reference	業務指示書
WaBuB	Waldaa Bulchinsaa Bosonaa: Forest Administration Association	森林管理組合
WG	Working Group	ワーキンググループ

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：エチオピア国	案件名：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画
分野：自然環境保全・森林資源管理/保全	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部森林・自然環境保全第2T	協力金額（評価時点）：3.62億円
協力期間	(R/D)：2003年10月1日～ 2006年9月31日
	(延長)：
	(F/U)：
	(E/N)（無償）
先方関係機関：オロミア州農村土地・自然資源管理局(OARDB)	
日本側協力機関：	
他の関連協力：特に無し	
1-1 協力の背景と概要	
<p>エチオピア国（以下「エ」国）は、かつては国土面積の約35%（約42百万ha相当）が森林で占められていたといわれるが、不適切な土地利用や過度の森林伐採、人口増加等により、森林は面積的にも質的にも減少・劣化した。国連の報告によると、2000年時点では森林面積は約4.5百万haにまで減少し、森林保全のため管理されている土地は、国土面積の約2%のみであるとされている。</p> <p>こうした事態に対処するため、「エ」国政府は全国森林優先地域（NFPA、現在は州森林優先地域；RFPA）の選定等、森林保全のための施策を打ち出しているが、その実施は十分ではない。</p> <p>このような状況に対処すべく、JICAは「エ」国政府からの要請に基づき、同国の中でも貴重な森林生態系を有している南西部地域の森林保全に関するマスタープランの策定を目的とした、開発調査「エチオピア国南西部地域森林保全計画調査」（1996年～1998年）を実施した。オロミア州ベレテ・ゲラ森林優先地域（150,000ha）の森林・地域社会調査の実施、地形図・植生図を作成し、これら調査結果に基づき、森林管理計画策定に必要な提言を行った。</p> <p>また、「エチオピア国自然環境保全協力基礎調査団」（2002年3月～4月）により、ベレテ・ゲラ森林優先地域においては居住地や農地の拡大により天然林が毎年減少しており、森林資源の有効利用、森林生態系の保全のための早急な対策が必要であることが改めて確認された。本調査の結果を受け、2002年6月、「エ」国政府はベレテ・ゲラ森林優先地域内の二つの郡（セカ・チョコルサ郡、ゲラ郡）において住民参加型による村落森林管理計画の策定・実施を目的とした技術協力プロジェクトの正式要請を我が国に対して行った。</p>	

1-2 協力内容

ベレテ・ゲラ森林優先地域の森林面積減少に対処するため、オロミア州、ジンマゾーン、ベレテ郡、サカ・チョコルサ郡の職員の能力を向上させつつ、住民参加型森林管理システムのモデルを策定する。

(1) 上位目標

ベレテ・ゲラ森林優先地域内外において、地域住民による森林管理が持続的に行われている。

(2) プロジェクト目標

ベレテ・ゲラ森林優先地域内のプロジェクト対象村落において、住民が参加型森林管理を持続的に実施する。

(3) アウトプット

アウトプット1：参加型村落調査に基づき、対象村落が決定される。

アウトプット2：森林官と開発普及員等の森林管理技術および参加型計画立案、評価・モニタリングに関わる技術が向上する。

アウトプット3：対象村落内の森林管理・土地利用上の境界線が確定される。

アウトプット4：対象村落内の地域住民の自然資源管理能力が向上する。

アウトプット5：ベレテ・ゲラ森林優先地域において適切な参加型森林管理のシステムが策定される。

アウトプット6：参加型森林管理に関する情報及び教訓が関係者間で共有される。

(4) 投入（評価時点）

日本側：

長期専門家派遣： 4名 機材供与： 総額 0.53億円

短期専門家派遣： 5名 ローカルコスト負担：総額 0.34億円

研修員受入： 本邦7名、第三国8名 その他（研修費等）：総額 0.22億円

相手国側：

カウンターパート配置： 38名

土地提供 ローカルコスト負担：カウンターパート給与

2. 評価調査団の概要		
調査者	(担当分野：氏名 職位)	
	団長・総括	勝田 幸秀 JICA 地球環境部第1グループ長
	参加型森林管理	柴田 晋吾 農林水産省林野庁森林整備部計画課
	評価計画	吉倉 利英 JICA 地球環境部森林・自然環境保全第2チーム
	評価分析	森 真一 有限会社アイエムジー代表取締役
調査期間	評価分析団員 2006年6月04日～2006年6月24日	評価種類：終了時評価
	他団員 2006年6月11日～2006年6月24日	
3. 評価結果の概要		
3-1 実績の確認		
<p>対象地域において住民による森林管理組合が形成されて、対象小集落及びオロミア州政府との間で森林管理仮契約が署名され、仮契約に基づいて森林管理のモニタリングを積極的に行っていることから、プロジェクト目標はほぼ達成されたといえる。</p> <p><u>指標1</u>「プロジェクトの支援を受けた対象村落の70%以上が、森林管理活動を継続的に実施する。」：二つの対象村落（ガンダ）における各一つの対象小集落がプロジェクトの支援により、森林管理仮契約に記載された森林管理活動を持続的に行っていることから、本指標は満たされている。</p> <p><u>指標2</u>「プロジェクトの支援を受けた地域住民の70%以上が、プロジェクト参加後、森林の蚕食（農民と共に毎年行うフィールド調査により推定される）を減少させる。」：対象となった二つの小集落の森林は伝統的な方法により利用・保全されており、森林管理仮契約は対象地域の住民が森林を使う権利をオロミア州政府が正式に保証するものとなっている。3回にわたって行われたモニタリングにより、プロジェクトの対象地域の住民は森林の破壊活動を一切行っていないことが明らかになったため、本指標は満たされている。</p> <p><u>指標3</u>「対象村落とオロミア州政府との間で、「森林管理契約」が締結される（2006年9月）。」：森林管理仮契約が、対象小集落とオロミア州政府との間で2005年8月に締結された。1年間のモニタリングの結果を受けて、森林管理仮契約は再検討され、正式な森林管理契約の締結若しくは仮契約の延長に向けた手続きが2006年8月中旬までに行われる予定であることから、本指標はほぼ満たされている。</p> <p><u>アウトプット1</u>：森林のタイプや住民の利用状況を踏まえ、対象村落を選定した。さらに実施単位としては、行政組織でなく社会組織を用いること、およびプロジェクトの限られた実施能力を鑑みて、小集落（アフアロ、チャフェ）が適切と判断された。一方、参加型森林管理および村落振興活動について、参加型のベースライン調査の結果を基に行動計画が策定された。</p> <p><u>アウトプット2</u>：既存の研修プログラムが活用されたが、カウンターパートの技術面、運営面の能力が研修プログラム、ワークショップおよびOJTを通じて向上した。</p>		

アウトプット3：ワークショップや GPS 測量により、対象小集落の人々の間で暫定的境界線が確定された。

アウトプット4：森林管理組合のメンバーを代表する執行管理委員会がそれぞれの小集落で定期的開催される一方、メンバーの過半数の参加による総会が数回開催された。森林管理組合及び農業・村落開発事務所の権利と責任を規定した森林管理仮契約（暫定的境界を示す地図を含む）が、2005年8月にアファロ及びチャフェ小集落で締結された。

アウトプット5：森林管理組合による合同モニタリングの結果を受けて、仮契約の終了期限である2006年8月中旬まで、森林管理契約締結若しくは仮契約の延長に向けて森林管理仮契約は再検討されることとなる。

アウトプット6：プロジェクト活動の情報は、他のドナー、NGO、連邦政府に共有されており、利害関係者の意識の向上に役立っている。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

天然林を地域住民の参加によって守るべきことはオロミア州政府の法律・政策と整合している他、住民参加による自然資源管理は、JICAのエチオピアに対する援助政策の柱の一つである。また、住民へのインタビュー調査によると、回答者はすべて、森林管理仮契約によって自分たちが森に住んで利用する権利が確保された、と非常に満足しており、住民のニーズと一致している。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は高い。森林管理仮契約の実施をつうじて森林管理システムはほぼ完成しており、まもなく正式の森林管理契約の締結若しくは仮契約の延長へと進むことが見込まれていることから、アウトプット5がほぼ達成されつつある。アウトプット1~4はプロジェクト目標の達成にそれぞれ寄与し、アウトプット6は今後の上位目標の達成への道筋を作っている。以上より、プロジェクト目標もほぼ達成されたといえる。

(3) 効率性

以下の理由により、プロジェクトの効率性はあまり高くない。(1) 短期専門家の TOR がエチオピア側カウンターパートと日本人専門家の間で十分な協議がなされないまま、専門家が派遣された。(2) オートバイや GPS 等の一部の機材が有効に活用されていない。(3) すべてのカウンターパートが、自らの所属先の行政事務とプロジェクト関連活動の両方の職務を遂行していることから、プロジェクトに十分な時間を割くことができず、プロジェクトの円滑な遂行が若干滞った。

(4) インパクト

参加型森林管理に関わる研修等を通じ、カウンターパートの意識が向上した。また、住民に対するインタビュー調査によると、製粉機の供与、道路の補修、改良養蜂箱の普及により、収入向上が期待される。さらに、森林管理仮契約の締結と実施は、森林管理組合の参加メンバーに、森林内に住み、森林を利用する権利が公式に確保されたとの安心感をもたらした上、森林保全への意識が高まっており、大きな社会的インパクトが確認されている。これらプロジェクトの効果として、対象村落周辺の住民も森林管理仮契約に高い関心を持っており、今後、ベレテ・ゲラ優先地域内で拡大していくこと（上位目標の達成）が見込まれる。

(5) 自立発展性

ゾーンと郡政府の行政能力は未だ低く、独自で森林管理契約を他の地域に拡大していくだけの運営・組織能力を有していないこと、また、本プロジェクトの実施中エチオピア側はカウンターパートの給料以外のローカルコストはほとんど負担しておらず、森林管理契約を他の集落に拡大していく財政がないことにより、自立発展性は低いと判断される。技術面においても、カウンターパートの住民への支援や継続的なモニタリングの実施において、一層の技術向上が求められる。ただし、意識面においてカウンターパートおよび住民の双方に向上が見られており、今後、自立発展性を向上させていく基盤が整いつつあるといえる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

カウンターパート及び地域住民に対する、参加型自然資源管理の研修やワークショップ、類似プロジェクトの見学は、プロジェクト関係者の意識向上に非常に役立ち、森林管理仮契約の締結へとつながった。

(2) 実施プロセスに関すること

供与した製粉機の運営組織の形成を通じて、住民の組織力が強まり、森林管理組合の円滑な運営につながっている。また、村落振興活動の実施により、プロジェクト側が住人の声に耳を傾ける姿勢を見せられたことから、住民の関心が高まり、森林管理組合の形成へとつながった。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

プロジェクト開始当初のカウンターパートのモチベーションの低さ及び日本人専門家の多忙といった双方の要因により、カウンターパートのプロジェクト運営、特に意思決定における関与が限られており、効率性や自立発展性に影響したと考えられる。しかし、プロジェクトの進行に従って、カウンターパートの意識が高まり、次第に積極的に運営に関わるようになってきた。

3-5 結論

(1)エチオピア政府の政策、住民のニーズ、日本の援助政策と、それぞれ整合していることから、プロジェクトの妥当性は高い、(2)参加型森林管理システムは実際上ほぼ完成しており、プロジェクトの有効性は十分である、(3)供与機材が必ずしも有効に使われておらず、プロジェクトの効率性はあまり高くない、(4)地域住民に、森林で暮らして森林を利用する上での安心感をもたらしており、プロジェクトのインパクトは非常に高い、(5)制度面、財政面、技術面の持続性に欠け、プロジェクトの自立発展性は低い、住民およびカウンターパートの意識変化が今後の改善に寄与すると期待される。

以上により、本プロジェクト実施の「妥当性」「有効性」「インパクト」は高いと判断されるものの、「効率性」と「自立発展性」に課題がある。しかし、意識面の変化など改善・向上に向けた基盤が整いつつある他、実施の妥当性（政策との整合、住民のニーズ等）は引き続き高いことから、効率性や自立発展性の確保に留意しつつフェーズ プロジェクトを検討・実施することにより、上位目標の達成が期待できる。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- プロジェクト終了時まで、残りの活動を完了させる。具体的には、森林管理仮契約の締結までのプロセスにおける経験や教訓を整理するとともに、2006年8月に期限が切れる森林管理仮契約の延長若しくは本契約化を支援する。また、政府関係者、NGOや他ドナーを招いて公開セミナーを実施する。
- プロジェクト供与機材をエチオピア側に引渡し、適切に記録・管理されるための体制を築く。
- 本プロジェクトのフェーズ（4年間のプロジェクトを実施）として、これまでの仮契約のプロセスを踏まえた参加型森林管理ガイドラインを整備するとともにベレテ・ゲラ森林における森林管理組合のアプローチのガイドラインをまとめるとともに、ベレテ・ゲラ森林優先地域内の他村落に参加型森林管理を普及する。また、自立発展性を確保するために、エチオピア側のローカルコストの負担をプロジェクトの実施・継続の条件とする。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- カウンターパートがプロジェクトの運営や意思決定において効果的に関わることができするための仕組みと環境を整備する。
- 類似プロジェクトを見学する機会をプロジェクト初期段階に設け、関係者の意識向上を図る。
- 本プロジェクトにおける参加型森林管理計画は、村落振興活動を通じた自然資源管理能力の向上もねらいとしていることから、原則として、村落振興活動は森林管理と同じレベル（村落・集落等）で実施する（ただし、現地の状況を勘案する）。

3-8 フォローアップ状況

プロジェクト期間の終了時（2006年9月末）までに、エチオピア側が一定のローカルコストを負担することが、フェーズ 開始の条件となる。フェーズ プロジェクトにおいては、主にフェーズ の実績を踏まえた参加型森林管理ガイドラインを整備し、ベレテ・ゲラ森林優先地域内に普及するとともに、森林資源管理におけるカウンターパートや住民の能力強化を図る。

第1章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

本プロジェクトは、2003年10月から開始され、ベレテ・ゲラ森林優先地域内における参加型森林管理体制の確立を目指し、オロミア州農業・村落開発局（OARDB）をカウンターパート機関として協力を実施してきた。

本調査は2006年9月のプロジェクト終了前に、プロジェクト目標の達成度や事業の効率性、今後の自立発展性の見通し等の観点から、エチオピア側評価調査団と合同でプロジェクトを評価し、また、その結果を踏まえ、プロジェクト終了の適否やフォローアップの必要性を判断するとともに、今後の提言や教訓を導き出すことを目的として実施する。

1-2 調査団の構成

1-2-1 調査団員構成

<日本側>

- ・ 団長/総括 勝田 幸秀 JICA 地球環境部第1グループ長
- ・ 参加型森林管理 柴田 晋吾 農林水産省林野庁森林整備部計画課
- ・ 評価計画 吉倉 利英 JICA 地球環境部第1グループ（森林・自然環境保全）
第2チーム ジュニア専門員
- ・ 評価分析 森 真一 （有）アイエムジー代表取締役

<エチオピア側>

- ・ Nugusu Feyisa Team Leader, Wildlife Conservation Team, OARDB
- ・ Tibebu Tadesse Team Leader, Forest Conservation Team, OARDB
- ・ Siraj Kedir Director, Planning, Inspection & Statistics Directorate of Oromia Regional Government's President Office

1-2-2 調査期間

2006年6月4日から6月23日（森）

2006年6月11日から6月23日（勝田、柴田、吉倉）

1-3 対象プロジェクトの概要

1-3-1 背景と概要

エチオピア国（以下「エ」国）は、かつては国土面積の約35%（約42百万ha相当）が森林

で占められていたといわれるが、不適切な土地利用や過度の森林伐採、人口増加等により、森林は面積的にも質的にも減少・劣化した。国連の報告によると、2000年時点では森林面積は約4.5百万haにまで減少し、森林保全のため管理されている土地は、国土面積の約2%のみであるとされた。こうした事態に対処するため、「エ」国政府は全国森林優先地域(NFPA、現在は州森林優先地域；RFPA)の選定等、森林保全のための施策を打ち出しているが、その実施は十分ではない。

このような状況の中で、JICAは「エ」国政府から日本国政府への要請に基づき、同国の中でも貴重な森林生態系を有している南西部地域の森林保全に関するマスタープランの策定を目的とした、開発調査「エチオピア国南西部地域森林保全計画調査」(1996年～1998年)を実施した。この中で、オロミア州ベレテ・ゲラ森林優先地域(150,000ha)の森林・地域社会調査の実施、地形図・植生図を作成し、これら調査結果に基づき、森林管理計画策定に必要な提言を行った。

また、「エチオピア国自然環境保全協力基礎調査団」(2002年3月～4月)により、ベレテ・ゲラ森林優先地域においては、居住地や農地の拡大により天然林が毎年減少しており、森林資源の有効利用、森林生態系の保全のために早急な対策が必要であることが改めて確認された。本調査の結果を受け、2002年6月、「エ」国政府はベレテ・ゲラ森林優先地域内の二つの郡(セカ・チョコルサ郡、ゲラ郡)における住民参加型による村落森林管理計画の策定・実施を目的とした技術協力プロジェクトの正式要請を日本国政府に対して行った。

日本政府は2002年12月に事前評価調査を実施し、その結果、特に森林優先地域のプロジェクト対象村落内外において、地域住民による森林管理が持続的に行われることが重要であると判断した。2003年9月にJICAとオロミア州農村土地・天然資源管理庁(当時、現オロミア州農業村落開発局)はプロジェクトの枠組みを示したR/Dに署名し、2003年10月1日より3年間の協力期間とする本プロジェクトを開始した。

1-3-2 プロジェクトの内容

- (1)上位目標 : ベレテ・ゲラ森林優先地域プロジェクト対象村落内外において、地域住民による森林管理が持続的に行われている。
- (2)プロジェクト目標 : ベレテ・ゲラ森林優先地域内の対象村落(ガンダ)において、住民が参加型森林管理を持続的に実施する。
- (3)アウトプット :
 1. 参加型のワークショップや現地調査などの手法に基づき、対象村落(ガンダ)が決定される。
 2. 森林官・開発普及員等の森林管理技術および参加型計画立案、評価・モニタリングに関

わる技術が向上する。

3. 対象村落内の森林管理・土地利用上の境界線がすべての主要利害関係者間で同意される。
4. 対象村落（ガンダ）内の地域住民の自然資源管理能力が向上する。
5. ベレテ・ゲラ森林優先地域に適した参加型森林管理手法が明確化される。
6. 参加型森林管理に関する情報および教訓が関係者間で共有される。

(4)活動：

- 1-1 参加型基礎調査を実施する。
- 1-2 地域内の利害関係者について分析を行う。
- 1-3 対象候補村落（ガンダ）で森林管理、村落振興活動に関する合意形成を目的としたワークショップを開催する。

- 2-1 森林官・開発普及員の業務内容を分析し、研修ニーズを把握する。
- 2-2 関係者と協議の上、分野ごとに研修計画を立案する。
- 2-3 森林官・開発普及員に対して森林管理技術の研修を実施する。
- 2-4 森林官・開発普及員に対して参加型計画立案、モニタリング・評価に関する研修を実施する。
- 2-5 ベレテ・ゲラ森林優先地域の他の村落で勤務する森林官・開発普及員に対し、参加型森林管理を紹介するワークショップを開催する。
- 2-6 オロミア州の担当技術者に対して GIS とリモートセンシング技術に関する研修を実施する。
- 2-7 セカ・チョコルサ、ゲラ両郡の森林官・開発普及員に対して GPS 測量に関する研修を実施する。
- 2-8 研修参加者による評価結果に基づいて研修計画・カリキュラム・教材を改訂する。

- 3-1 「参加型立体地形モデル」を用いた関係者間のワークショップを実施する。
- 3-2 立体地形モデル上に図示された土地利用状況や境界線等の情報を GIS システムに取り込む。
- 3-3 森林管理・土地利用上の境界線について行政レベルでの検討を行う。

- 4-1 村落振興活動（例：農地でのアグロフォレストリーの実施、簡易かまど、改良養蜂等の普及、ジェンダーの啓発）を実施する。
- 4-2 地域住民と行政当局の協議を通じ、森林の利用と管理に関する環境面、社会面での仮ルールを定める。
- 4-3 地域住民による「森林管理仮計画」の策定を支援する。
- 4-4 地域住民による森林内での小規模実験活動を支援する。
- 4-5 地域住民による森林管理状況のモニタリングを支援する。

- 5-1 モニタリング結果に基づいて、地域住民による「森林管理計画」の策定を支援する。

- 6-1 土地利用図・植生図等の地図情報を関係者で相互理解するための資料を作成する。

- 6-2 参加型森林管理ワーキンググループ(PFM-WG)等に参加して他ドナー、NGO、連邦政府と情報交換を行う。
- 6-3 他のドナー、NGO、連邦政府を対象とした公開セミナーを開催する。
- 6-4 ベレテ・ゲラ優先地域内の他のガンダのコミュニティーリーダーに対してプロジェクト活動紹介セミナーを開催する。
- 6-5 ニュースレター（オロモ語、英語）を発行する。

第2章 評価の方法

本評価は、JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）に基づき、手法としてプロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management：以下、「PCM」）の評価手法を採用し、以下の3ステップにより評価を行った。PCM手法を用いた評価は、1）プロジェクトの実績及び実施プロセスの検証、2）評価5項目の検証、3）検証結果からの提言・教訓、の3ステップからなる。

実績・プロセスの検証では、これまでの実施運営総括表等の報告書の分析や質問票、インタビュー等の方法により、PDM に示されたプロジェクト目標及びアウトプットの達成状況や見込みの把握を行った。評価5項目の検証では、以下の表1の5項目の観点に沿って収集データの分析を行った。これらの検証を元に、「プロジェクト終了まで」及び「終了後」の方針に対する提言を行うとともに、他のプロジェクト運営に活かせる教訓を抽出した。

なお、評価は日本及びエチオピアの両国から評価メンバーを選出し、合同で行った。

表1 評価5項目（終了時評価）

項目	視点
妥当性 Relevance	「プロジェクト目標」及び「上位目標」が、評価を実施する時点において妥当か（受益者のニーズに合致しているか、問題・課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か等）どうかを検討する。
有効性 Effectiveness	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされるのかどうかを問う。また、プロジェクトの「アウトプット」によって、「プロジェクト目標」がどこまで達成されたか、あるいは達成される見込みであるかどうかを検討する。
効率性 Efficiency	プロジェクトの「投入」と「アウトプット」の関係に着目し、資源が有効に活用されているかどうかを問う。また、投入された資源の質、量、手段、方法、時期の適切さを検討する。
インパクト Impact	プロジェクトの実施により生ずる直接的・間接的な正・負の影響を見る。計画当初に予想されなかった影響や効果も含む。
自立発展性 Sustainability	協力が終了した後も、プロジェクトによる便益が持続されるかどうかを、プロジェクトの自立度を中心に検討する。

出所：JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）終了時評価の主な視点より抜粋

2-1 評価設問と評価手法

PDM、実施運営総括表、専門家活動報告書、その他プロジェクト関連文書のレビューを行い、終了時評価の評価設問を設定し、評価グリッド（附属資料3の「合同評価報告書」のAnnex4に添付）を作成した。設問に対する調査結果については、評価調査団及びプロジェクト関係者との協議を

つうじて検討・記載された。

2-2 データ収集方法

2-2-1 質問票

現地調査に先立ち、評価グリッドを基にプロジェクト関係者に対する質問票（附属資料 4）を作成し、事前にプロジェクトへ配布した。対象は、カウンターパート機関（OARDB）、日本人専門家、住民グループ及びプロジェクト対象集落近隣の住民である（住民への質問票調査の方法については、附属資料 3 の「合同評価報告書」の Annex 7 に添付）。回答は現地にて回収・確認し、データを補足、追加情報を入手するとともに、インタビューの際の質問項目を確認した。

2-2-2 面談及びインタビュー

本プロジェクトの成果、実施プロセス、インパクトや自立発展性を把握するため、プロジェクト関係者に対して、グループ協議および個別インタビューを行った。対象は、日本人専門家、カウンターパート及び住民グループである。

2-2-3 現場調査

プロジェクト対象地であるベレテ・ゲラ森林優先地域内の 2 小集落（アファロ及びチャフェ近隣）を訪問し、周辺の土地利用（森林、住居、農地等）の様子や村落振興活動（改良養蜂箱、製粉機、手掘り井戸）の状況を確認した。

2-3 データ分析方法

日本側で作成した評価グリッドを中心に評価方法をエチオピア側調査団及びプロジェクト関係者に説明し、合意を得た後、得られた調査結果について協議した。また、PDM に掲げた指標及び活動計画（PO）の進捗計画と比較し、進捗度合いについて確認・協議した結果を実績グリッド（附属資料 3 の「合同評価報告書」の Annex 5-b に添付）にまとめた。評価 5 項目に関する分析については、JICA 評価ガイドラインに述べられている 5 項目評価の視点から判断するとともに、評価グリッドに設定した判断基準を基にプロジェクト専門家及び C/P、先方評価団と協議を行い、評価結果の分析を行った。

調査結果の分析を基に合同評価レポート案を作成し、プロジェクトにフィードバックを行い、評価結果および残りのプロジェクト活動期間の方針やプロジェクト終了後の展望について、意見交換を行った。更には、本プロジェクトの合同調整委員会（JCC）の場でも評価結果について報告し、関係者の了承を得た。

第3章 プロジェクトの実績及び実施プロセス

3-1 投入実績

3-1-1 日本側投入

(a) 日本人専門家（詳細は附属資料3の「合同評価報告書」Annex 6-aのとおり）

- 長期派遣専門家2名（チーフアドバイザー／情報管理（2003年7月3日着任）と参加型森林管理／業務調整（2003年9月5日着任））が、プロジェクト開始前にパイプライン専門家として赴任し、プロジェクトの開始に貢献した。加えて、村落振興（2003年10月9日着任 - 2005年10月7日離任）の初代専門家とその後任（2005年9月26日着任）が派遣された。
- 2003年度には、参加型ベースライン調査を、ジェンダー／村落開発及び参加型地域社会開発の短期派遣専門家、カウンターパートと現地コンサルタントの3者による調査を2004年1～3月に計画していたが、実際の赴任は、現地コンサルタントによる現地調査終了後（2004年2月）のタイミングとなったため、同調査の分析からの活動となってしまった。
- 2004年度には、生物多様性保全の短期派遣専門家（2004年5月19日～11月4日）及び参加型地域社会開発（2004年7月16日～2005年1月20日）が派遣された。後者の専門家は当初「参加型森林仮契約」策定の全プロセス（2004年2月～7月）のファシリテーションを行うことを予定していたが、実際に派遣されたのは、このプロセスの終盤となり所期の派遣目的の一部変更を余儀なくされた。
- 2005～2006年度の短期派遣専門家（村落開発）は、6ヶ月間派遣された。

(b) 機材供与

附属資料3の「合同評価報告書」Annex 6-fに記載されている機材が、ほぼ計画されたスケジュールどおりに調達・供与された。ただし、村落振興活動の一環として実施された、改良型養蜂箱とその付属品の供与は、対象村落での現況調査（伝統的養蜂活動の実施状況、郡の改良型養蜂の普及方針等）に時間を要したため、予算が承認され、機材購入を行なったのが2005年10月となった。このため、機材配布後、対象村落で養蜂活動が開始されたのは2006年1月以降となり、プロジェクトが終了する2006年9月までに、収穫量のデータ収集、養蜂活動を通じた生計向上効果等のモニタリングを行うことが困難な状況となった。

(c) 施設建設

プロジェクトのインフラ整備として、2004年5月までに、プロジェクトの運営管理の拠点として森林管理訓練センターをジンマに、また普及活動を推進するための拠点として、森林管理普及センターをベレトとゲラのそれぞれ1カ所に建設した（これらの土地は、プロジェクト開始直後にエチオピア側より提供された）。また、ゲラ郡のグラ・アフアロ村に通じる道路（合計24km）が降雨による土壌浸食により通行できない状態にあっ

たため、ゲラ森林管理普及センターが位置するチラからナソ川(プロジェクト対象地域)までの道路が補修された。

(d) 研修員の受け入れ

当初計画通り年間2名の本邦研修員を受け入れ(延べ7名)、その他、第3国研修事業の一環として、タイ国及びフィリピン国に2名ずつ、ケニア国に年間2名の研修員が2年間にわたって派遣された。

3-1-2 エチオピア側投入

(a) カウンターパートの配置(詳細は附属資料3の「合同評価報告書」Annex 6-bのとおり)

- プロジェクト開始当初から、州レベルにおいてプロジェクト・ダイレクター、副プロジェクト・ダイレクターが、ゾーンレベルにおいてプロジェクト・マネージャーが、R/Dに基づき配置された。オロミア州では人事異動が頻繁に行われており、プロジェクト開始後、プロジェクト・ダイレクターは現在5人目となっている
- 2004年7月赴任の短期専門家(参加型地域社会開発)のカウンターパートが任命されたのは赴任3ヵ月後の10月上旬となり、業務遂行に遅れをきたす結果となった。
- 郡レベルでは、ゲラ郡では11名、セカ・チョコルサ郡では5名のカウンターパートがプロジェクトに従事している。ただし、郡の分割に伴い、ベレテ森林がシャベ・ソンボ郡へと移管されたものの、セカ・チョコルサ郡からシャベ・ソンボ郡へは2名のカウンターパートが異動したのみであり、新たなカウンターパートは任命されていない。

(b) 土地

前述の3箇所のプロジェクト関連施設の土地が提供された。

(c) プロジェクト運営費

プロジェクトに直接関係する経費については、カウンターパートの給料以外、ほぼ全て日本側が負担している。

3-2 活動の実施状況

プロジェクトの活動場所が州、ゾーン、郡(2ヶ所)の合計4ヶ所となり利害関係者の意見調整に時間がかかったこと及びプロジェクト・ディレクターの頻繁な交代により州の意思決定が遅れたことから、活動の進捗全体に遅れが生じたものの、プロジェクトは概ねPDM及びPOに記載されている活動を終了した。行われなかったものは、活動2-2の研修計画の作成、活動2-7のGPSの研修である。また、活動5-1「モニタリング結果に基づいて、地域住民と行政当局による「森林管理計画」の策定を支援する。」はプロジェクト終了まで継続することとし、活動6-3「他のドナー、NGO、連邦政府を対象とした公開セミナーを開催する。」はプロジェクト終了前の2006年9

月に開催する予定である。一方、活動 2-5「ベレテ・ゲラ森林優先地域の他の村落(ガンダ)で勤務する森林官・開発普及員に対して参加型森林管理を紹介するワークショップを開催する。」及び活動 6-4「ベレテ・ゲラ森林優先地域の他のガンダのコミュニティーリーダーに対してプロジェクト活動紹介セミナーを開催する。」については、合同で実施されることが考えられているが、オロミア州政府が参加型森林管理における州の方針を明確にすることが前提となるため、プロジェクトの次フェーズにおいてこれらを実施することとなった。

プロジェクト活動の実施状況の詳細は以下の通り。

表 3-1 活動の実施状況

活動	実施状況
(1)-1 参加型基礎調査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 州、ゾーン、郡及び JICA 専門家から成るタスクフォースが立ち上げられ、以下の基準によってベースライン調査の対象となる村落(ガンダ)を選んだ。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 住民により森林がよく守られていること。 (2) アクセスできること (3) 森林のタイプ (4) コミュニティーの関心の度合い (5) 郡行政の関心の度合い ● サバカ・ダビエ(森林荒廃が進行している林地および住民が利用している林地)及びゲラ・ナソ(天然林および住民が利用している林地)が調査対象村落として選定された。選定においては、将来的に効果的な普及へと繋げていくため、住民による森林利用の良い事例に関する制度化及びモデル化の可能性を考慮し、比較的条件の良い天然林も候補として挙げられた。 ● エチオピアのコンサルタントと日本人短期専門家が、ベースライン調査及び補足的インタビュー調査を 2004 年 1 月から 2 月にかけて行い、その結果の報告書がオロミア語及び英語で作成された。
(1)-2 地域内の利害関係者について分析を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ● 2004 年 2 月から 3 月にかけて、対象村落の利害関係者について分析がなされた。 ● その後、タスクフォースを中心とする関係者間の議論の結果、天然林と森林コーヒーを含むグラ・アファロ(ガラ・ナソ隣接村)がガラ・ナソに代わって対象村落として選定され、サバカ・ダビエ村とグラ・アファロ村の 2 つを対象村とすることで州政府の基本的な了解が得られた。(2004 年 8 月) ● グラ・アファロ において、2004 年 11 月に補足的なベースライン調査が行われた。
(1)-3 対象候補村落(ガンダ)で森林管理、村落振興活動に関する合意形成を目的としたワークショップを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記分析及び対象村落・郡の代表者、プロジェクトとの協議の結果、2004 年 4 月から 10 月にかけて各々の村落での行動計画が作成された。 ● 2005 年 3 月に、参加型森林管理の実施単位を小集落とし、アファロ(グラ・アファロ村落内)及びチャフェ(サバカ・ダビエ村落内)の各小集落にて行われること、また、村落振興活動が村落レベルで行われることが合意された。
(2)-1 森林官・普及員の業務内容を分析し、研修ニーズを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 組織図の作成過程及び利害関係者分析をつうじて、森林官及び普及員の職務内容が把握された。
(2)-2 関係者と協議の上、分野ごとに研修計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加型森林管理に関する一般的な研修ニーズが日本人専門家によって把握されたが、専門家の時間的制約のため、プロジェクト独自の研修プログラムは作られず、既成の研修コースが多く使われた。
(2)-3 森林官・開発普及員に対して森林管理技術の研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンターパート研修のリストは附属資料 3 の「合同評価報告書」Annex 6-c のとおり。

施する。	
(2)-4 森林官・開発普及員に対して参加型計画立案、モニタリング・評価に関する研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンターパート研修のリストは附属資料3の「合同評価報告書」Annex 6-cのとおり。
(2)-5 ベレテ・ゲラ森林優先地域の他の村落(ガンダ)で勤務する森林官・開発普及員に対して参加型森林管理を紹介するワークショップを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後実施予定 ● プロジェクト実施の決定(他村落への普及)が行われていない状況においてベレテ・ゲラ 森林優先地域の住民を招いて公開セミナーを開催するのは時期尚早である。セミナーでは、オロミア州政府が参加者に対して、ベレテ・ゲラ 森林優先地域における参加型森林管理の方針について説明することになるため、プロジェクトの次フェーズにおいてこれらを実施することとなった。
(2)-6 オロミア州の担当技術者に対して GIS とリモートセンシング技術に関する研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 州が GIS 研修のためのカウンターパートを指定できなかったため、GIS の研修は州レベルではなく、郡及びゾーンレベルにおいて行われた。リモートセンシングの研修は、十分な資格のあるカウンターパートがいなかったため、行われなかった。
(2)-7 サカ・チョコルサ、ゲラ両郡の森林官/開発普及員に対して GPS 測量に関する研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● GPS を用いたデータ収集が、セカ・チョコルサ、ゲラ両郡のカウンターパート数人に対して OJT により行われたが、GPS の詳細な利用方法やデータのコンピューターでの利用方法についての研修は行われなかった。
(2)-8 研修参加者による研修評価結果に基づいて研修計画・カリキュラム・教材を改訂する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の成果を紹介して参加者の経験や知識を共有するためのワークショップが2004年12月に1日実施され、将来の研修への提言がなされた。
(3)-1 「参加型立体地形モデル」を用いた関係者間のワークショップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 2005年の3月から7月にかけて立体地形モデルの教材がカウンターパート及びボランティアによって作られた。また、2005年12月から2006年1月にかけて、参加型立体地形モデルの紹介ビデオがカウンターパートによってオロミア語に翻訳された。 ● 2006年2月に参加型立体地形モデルのワークショップがアファロ及びチャフェで行われた。
(3)-2 立体地形モデル上に図示された土地利用状況や境界線等の情報を GIS システムに取り込む。	<ul style="list-style-type: none"> ● 立体地形モデル上にあらわされた土地利用および境界線に関する情報が日本人専門家により GIS に取り込まれた。
(3)-3 森林管理・土地利用上の境界線について行政レベルでの検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ● 境界線(外部境界線、森林及び宅地や農地の境界線)が検討され、森林管理仮契約の一部として承認された。 ● アファロ小集落においては、参加型立体地形モデルを使って森林管理組合メンバーが土地利用を認識し、仮の境界線についての合意を得た。 ● アファロ小集落において、GPS 測量により外部境界線の一部が決められる一方、宅地や農地の位置が衛星画像によって確認された。 ● GPS 測量により、チャフェ小集落の仮の境界線が地図上に示された。その後、参加型立体地形モデルが作成されつつあり、今後正式な森林管理契約の締結にむけてのモニタリング及び評価に用いられていくこととなる。
(4)-1 ベースライン調査を通じて決定された 村落振興活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● ベースライン調査の結果により村落振興活動の内容が決められ、実施された。内容として、200 の改良養蜂箱及びその付属品が両村落に配布され、2 つの製粉機が設置され、1 つの製粉機が修理された。アファロ小集落においては、住民とともに手掘り井戸が建設された。
(4)-2 地域住民と行政当局の協議を通じ、森林の利用と管理に関する環境面、社会面での仮ルールを定める。	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林の利用に関する基準や社会規範がエチオピア人コンサルタントによって分析され、アファロでの森林管理仮契約に反映された。チャフェでは環境基準や社会規範の詳細な分析は行っていない。
(4)-3 地域住民による「森林管理仮計画」の策定を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林管理に関する森林管理組合及び農業・村落開発事務所の権利及び責任を規定する森林管理仮契約(境界線を示す地図を含む)が、2005

	年 8 月にアフアロ及びチャフェ小集落において署名された。
(4)-4 地域住民による森林内での小規模実験活動を支援する。	(本活動は(4)-1 に統合された)
(4)-5 地域住民による森林管理状況のモニタリングを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> • 合同モニタリングが 2005 年 12 月、2006 年 3 月及び 6 月にプロジェクトの支援のもと実施され、住民の森林管理の能力が強化された。現在の森林管理仮契約が更新された場合、次回のモニタリングは 2006 年 12 月に実施される予定である。
(5)-1 モニタリング結果に基づいて、地域住民と行政当局による「森林管理計画」の策定を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクトの終了までに実施される予定。 • 2006 年 4 月にアフアロ小集落で、2006 年 5 月にチャフェ小集落で、森林管理組合の総会により内規が決定された。モニタリングの結果、内規及び森林管理仮契約は再検討され、正式な森林管理契約の締結若しくは仮契約の延長へと進んでいくこととなる。
(6)-1 土地利用図・植生図等の地理情報を関係者で相互理解するための資料を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • 土地利用図および植生図を含む地理情報が作成されて、オロミア州政府に提供された。地図のリストは附属資料 3 の「合同評価報告書」Annex 6-e のとおり。
(6)-2 参加型森林管理ワーキンググループ (PFM-WG) といったネットワークを通じて、他ドナー・NGO・連邦政府との情報と教訓の共有をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> • ベースライン調査の報告書は、GTZ アダバ・ドドラ森林管理計画プロジェクト、LUPO-GTZ、FARM AFRICA 等のドナーやプロジェクトに配布された。 • プロジェクトの活動について、他のプロジェクトやドナーによるセミナーなどの機会を利用して紹介された。
(6)-3 他のドナー、NGO、連邦政府を対象とした公開セミナーを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクトの結果についての公開セミナーを NGO、ドナー、連邦政府を対象に 2006 年 9 月に開催する予定である。
(6)-4 ベレテ・グラ森林優先地域の他のガンダのコミュニティリーダーに対してプロジェクト活動紹介セミナーを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> • オロミア州政府が参加型森林管理における州の方針を明確にすることが前提となるため、プロジェクトの次フェーズにおいてこれらを実施することとなった。
(6)-5 ニュースレター（オロモ語と英語）を発行し、地域住民の間で参加型森林管理に関する情報の共有をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> • プロジェクトの進捗や目的について説明するニュースレターが一度作成・配布された。 • 利害関係者の意識の向上に役立たせるため、ニュースレターの代わりに、プロジェクト活動が 4 回地元の TV で放映された。

3-3 アウトプットの達成状況

アウトプット 1：参加型のワークショップや現地調査などの手法に基づき、対象村落（カバレ）が決定される。

プロジェクトの当初の想定では、村落を森林管理のための単位組織とすることを想定していたが、村落（ガンダ）は行政の単位であって、（集落の境界線を交渉することを含む）社会的組織の単位ではないこと、また、広い地域をカバーする社会組織によって森林管理が行われることが望ましいものの、プロジェクトの限られた実施能力に鑑みて、実施単位としては小集落が適切と判断した。サバカ・ダビエ村の小集落の中で、森林のタイプと森林の荒廃の度合いをみてチャフェ小集落が選定され、グラ・アフアロ村では、アクセスの容易さからアフアロ小集落が森林管理計画の対象となった。一方、参加型森林管理および村落振興活動の行動計画について関係者間で合

意を得るためにワークショップを計画していたが、時間が限られていたため、ワークショップを開かずにベースライン調査の結果により行動計画が策定された。

アウトプット 2：森林官・開発普及員等の森林管理技術および参加型計画立案、評価・モニタリングに関わる技術が向上する。

専門家にプロジェクト独自の詳細な研修計画を作成する時間がなく、既存の研修プログラムが活用されたが、カウンターパートの技術面、運営面の能力が研修プログラム、ワークショップおよび OJT をつうじて向上した。中でも、フィリピン及びタイで行われた参加型による自然資源管理のトレーニングは、カウンターパートの意識の向上に役立った。

アウトプット 3：対象村落内の森林管理・土地利用上の境界線がすべての主要利害関係者間で同意される。

ワークショップや GPS 測量により、対象小集落の人々の間で暫定的境界線が確定された。隣接する集落や行政村との境界線は、関係者が必ずしも明確に認識しているわけではなく、合意に至るのは容易でないと判断されたため、境界線に関する合意を後回しにして森林管理仮契約の締結を進めることにした。土地利用や暫定的境界線を確認するために、参加型立体地形モデルワークショップが 2006 年 2 月にアファロ及びチャフェ小集落で開かれた。

アウトプット 4：対象村落（ガンダ）内の地域住民の自然資源管理能力が向上する。

森林管理組合のメンバーを代表する執行管理委員会がそれぞれの小集落で定期的開催される一方、メンバーの過半数の参加による総会が数回開催された。森林管理組合及び農業・村落開発事務所の権利と責任を規定した森林管理仮契約（暫定的境界を示す地図を含む）が、2005 年 8 月にアファロ及びチャフェ小集落で締結された。両者による森林管理仮契約の合同モニタリングが 2005 年 12 月、2006 年 3 月及び 6 月に行われた。森林管理仮契約の内規ドラフトが 2006 年 1 月に作成され、その後、最終版の作成まで継続的に共同作業が行われた（2006 年 4 月にアファロで、同年 5 月にチャフェ小集落で内規が作成された）。

アウトプット 5：森林優先地域に適した参加型森林管理手法が明確化される。

参加型森林管理手法が確立するためには、森林管理契約が正式に締結されることと、ベレテ・ゲラ森林優先地域における参加型森林管理のガイドラインと実施戦略が策定されることが必要である。森林管理組合の合同モニタリングの結果を受けて、仮契約の終了期限である 2006 年 8 月中旬まで、森林管理契約締結若しくは仮契約の延長にむけて森林管理仮契約は再検討されることとなる。森林管理仮契約の内規については、2006 年 4 月にアファロ小集落で、同年 5 月にチャフェ小集落で森林管理組合総会によって承認されている。

アウトプット6：参加型森林管理に関する情報及び教訓が関係者間で共有される。

プロジェクト活動の情報は、他のドナー、NGO、連邦政府に共有されており、利害関係者の意識の向上に役立っている。プロジェクトの経験や教訓については、今後プロジェクトの終了までにセミナーを開催することによって、関係者に共有される予定である。

各指標に基づく、プロジェクト成果の達成状況の詳細は以下の通り。

表 3-2 アウトプットの達成状況

アウトプット	PDMにおける指標	達成状況
(1) 参加型のワークショップや現地調査などの手法に基づき、対象村落(カバレ)が決定される。	(1)-1 参加型村落調査報告書が(オロモ語、英語)作成される。	エチオピアのコンサルタントと日本人短期専門家により、ベースライン調査及び補足的インタビュー調査がサバカ・ダビエ村及びガラ・ナソ村を対象に2004年1月から2月にかけて行われた。その後、対象村落がガラ・ナソ村からグラ-アフアロ村に変更されたため、後者に対して2004年11月に補足的なベースライン調査が行われた。これらの結果の報告書は、オロミア語及び英語で作成された。
	(1)-2 対象村落(ガンダ)の地域住民が参加型森林管理に向けた活動の実施に賛同する。(2004年4月)	2004年6月から8月にかけて行われた一連の会議を通じて、セカ・チョコルサ、ゲラ郡、行政村関係者や地域住民が対象村落(ガンダ)の選定に合意した。オロミア州政府は2004年8月にこれを承認した。
(2) 森林官・開発普及員等の森林管理技術および参加型計画立案、評価・モニタリングに関わる技術が向上する。	(2)-1 森林官・開発普及員等の研修ニーズが把握される。	参加型森林管理にかかる研修ニーズが、詳細ではなかったが、おおまかに把握された。
	(2)-2 研修計画が策定される。(2004年4月)	本プロジェクト独自ではなく、既成の研修プログラムがほとんど使われた。
	(2)-3 研修評価結果に基づき、研修計画・カリキュラム・教材が改訂される。	上記のとおり、プロジェクトは独自の研修計画、カリキュラム、教材は作らなかった。一方、研修の成果を紹介して参加者の経験や知識を共有するためのワークショップが2004年12月に1日実施され、将来の研修への提言がなされた。
(3) 対象村落内の森林管理・土地利用上の境界線がすべての主要利害関係者間で同意される。	(3)-1 参加型立体地形モデルによって対象村落内の森林管理・土地利用上の境界線が地域住民の間で合意される。	ワークショップやGPS測量により、対象小集落の人々の中で暫定的境界線が合意された。境界線は、関係者が必ずしも明確に認識しているわけではなく、合意に至るのは容易でないと判断されたため、隣接する村との境界線に関する合意を後回しにして森林管理仮契約の締結を進めることにした。土地利用や暫定的境界線を確認するために、参加型立体地形モデルワークショップが2006年2月にアフアロ及びチャフェ小集落で開かれた。
	(3)-2 土地利用・植生図等の地理情報が作成される。	参加型立体地形モデルで示された土地利用や境界の情報がGISに取り込まれた。
	(3)-3 森林管理・土地利用上の境界線についてオロミア州政府の承認が得られる。	暫定的境界線を示す地図を含む森林管理仮契約が2005年8月にオロミア州政府に承認された。
(4) 対象村落(ガンダ)内の地域住民の自然資源管理能力	(4)-1 80%以上の農民が継続的に、意志決定・調整のための会議を少なく	森林管理組合のメンバーを代表する執行管理委員会がそれぞれの小集落で定期的に行われる一方、メンバーの過半数の参加による総会が数回開催された(参加率の平均は

が向上する。	とも毎月1回実施する。	アファロで60%、チャフェで70%)。
	(4)-2 地域住民グループのメンバーのうち女性の比率が全体として少なくとも30%を下回らない。	アファロ森林管理組合の執行管理委員会の9名のメンバーのうち2名(22%)は女性で、チャフェ森林管理組合の執行管理委員会の7名のメンバーのうち2名(29%)は女性であった。森林管理組合メンバーは世帯単位であり、ほとんどの所帯主は男性である。
	(4)-3 対象村落内の森林管理仮計画が策定される。	森林管理組合及び農業・村落開発事務所の権利と責任を規定した森林管理仮契約(暫定的境界を示す地図を含む)が、2005年8月にアファロ及びチャフェで締結された。
	(4)-4 森林管理状況のモニタリングが地域住民によって実施される。	森林管理組合及び農業・村落開発事務所による森林管理仮契約の合同モニタリングが2005年12月、2006年3月及び6月に行われた。
	(4)-5 モニタリング結果に基づき、地域住民によって「森林管理計画」が策定される。	森林管理仮契約の内規ドラフトが2006年1月に作成され、その後、最終版の作成まで継続的に共同作業が行われた(2006年4月にアファロで、同年5月にチャフェ小集落で内規が作成された)。
(5) ベレテ・ゲラ森林優先地域に適した参加型森林管理手法が明確化される。	(5) ベレテ・ゲラ州森林優先地域に適した参加型森林管理手法が策定される。	モニタリングの結果を受けて、仮契約の終了期限である2006年8月中旬まで、森林管理契約締結若しくは仮契約の延長にむけて森林管理仮契約は再検討されることとなる。内規については、2006年4月にアファロで、同年5月にチャフェで森林管理組合総会によって承認された。
(6) 参加型森林管理に関する情報および教訓が関係者間で共有される。	(6)-1 土地利用・植生図等の地理情報が関係機関に配布される。	土地利用図および植生図を含む地理情報が作成されて、オロミア州政府に提供された。地図のリストは附属資料3の「合同評価報告書 Annex 6-C のとおり。
	(6)-2 参加型森林管理ワーキンググループ等と定期的に情報交換がなされる。	参加型森林管理ワーキンググループといった、公式の情報交換のシステムは存在していない。ベースライン調査の報告書は、GTZ アダバ・ドドラ森林管理計画プロジェクト、LUPO-GTZ、FARM AFRICA 等のドナーやプロジェクトに配布された。また、プロジェクトの活動について、他のプロジェクトやドナーによるセミナーなどの機会を利用して紹介された。
	(6)-3 他ドナー、NGO、連邦政府を対象とした公開セミナーが開催される。	プロジェクトの結果についての公開セミナーを NGO、ドナー、連邦政府を対象に2006年9月に開催する予定である。
	(6)-4 ベレテ・ゲラ森林優先地域内村落の50%以上から、地域住民の代表が活動紹介セミナーに参加する。	オロミア州政府が参加型森林管理における州の方針を明確にすることが前提となるため、プロジェクトの次フェーズにおいてこれらを実施することとなった。
	(6)-5 ニュースレター(オロモ語、英語)が4回発行される。	プロジェクトの進捗や目的について説明するニュースレターが一度作成・配布された。また、プロジェクト活動が4回地元でTVで放映されたことは利害関係者の意識の向上に役立った。

3-4 プロジェクト目標の達成状況

本プロジェクトのプロジェクト目標は「ベレテ・ゲラ森林優先地域内の対象村落において、住民が参加型森林管理を持続的に実施する。」である。森林管理組合が形成されて、対象小集落及びオロミア州政府との間で森林管理仮契約が署名され、仮契約に基づいて森林管理のモニタリングを積極的に行っていることから、プロジェクト目標はほぼ達成されたといえる。プロジェクト目

標には3つの指標があり、それぞれの指標は以下のように全て満たされている。

指標1：プロジェクトの支援を受けた対象村落の70%以上が、森林管理活動を継続的に実施する。

二つの村落（ガンダ）における二つの小集落がプロジェクトの支援により、森林管理仮契約に記載された森林管理活動を持続的に行っている。

指標2：プロジェクトの支援を受けた地域住民の70%以上が、プロジェクト参加後、森林の蚕食（農民と共に毎年行うフィールド調査により推定される）を減少させる。

対象となった二つの小集落の森林は伝統的な方法により利用・保全されており、森林管理仮契約は対象地域の住民が森林を使う権利をオロミア州政府が正式に保証するものとなっている。3回にわたって行われたモニタリングにより、プロジェクトの対象地域の住民は森林の破壊活動を一切行っていないことが明らかになった。

指標3：対象村落とオロミア州政府との間で、「森林管理契約」が締結される（2006年9月）。

森林管理仮契約が、対象小集落とオロミア州政府との間で2005年8月に締結された。1年間のモニタリングの結果を受けて、森林管理仮契約は再検討され、正式な森林管理契約の締結若しくは仮契約の延長に向けた手続きが2006年8月中旬までに行われる予定である。

3-5 上位目標の達成見込み

上位目標：ベレテ・ゲラ森林優先地域プロジェクト対象村落内外において、地域住民による森林管理が持続的に行われている。

上位目標である森林管理仮契約/森林管理契約の他村落への面的な普及について、以下の理由から、ベレテ・ゲラ森林優先地域内においては長期的な取組みにより達成できると考えられる。

- チャフェ小集落と共に大集落（メティ・ジカ）を形成する3小集落（ガロ、アレレ、アンバルタ）の住民が森林管理組合を組織することに強い関心を示しており、3小集落の全94世帯中82世帯が既にその意志を明確に示している。
- 本終了時評価調査において実施した質問票調査において、対象村落の周辺住民が森林管理仮契約の締結に関心を示していた。

3-6 実施プロセスにおける特記事項

実施プロセスにおいて、以下の点が強調される。

- (1) プロジェクト開始当初のカウンターパートのモチベーションの低さ及び日本人専門家の多忙といった双方の要因により、カウンターパートのプロジェクト運営、特に意思決定における関与が限られていた。例えば、短期専門家の TOR がカウンターパートとの間で十分な協議がなされないまま要請書が発出されたり、専門家の英語報告書がカウンターパートの手に渡らなかつたりしたケースが見られた。このように、日本人専門家がプロジェクトを主導した場面が多く見られたものの、プロジェクトが進行して、カウンターパートの参加型森林管理に対する意識が向上するにつれて、多くのカウンターパートがより積極的にプロジェクトの運営に関わるようになってきた。
- (2) R/D の署名時にはオロミア州と住民との間の天然林の分収が想定されていたが、オロミア州農村土地・天然資源管理庁（当時、現オロミア州農業村落開発局）は、プロジェクト開始後に天然林から収入を得るという考え方を取り下げたため、プロジェクトは分収を伴わない参加型森林管理というアプローチをとることになった。
- (3) JICA の運営指導調査団が 2004 年 11 月に派遣され、プロジェクトの現状や進行状況を確認した上で、森林管理計画・社会林業に関わる専門的な観点から、主に境界線の合意（ゾーニング）ならびに管理計画のあり方について提言がなされた。その後の森林管理仮契約の締結や合同モニタリングにわたる各プロセスにおいて、提言事項を踏まえ、住民参加による合意形成及び意識向上を念頭に置きながら活動が実施された。また、行政側に対しても、参加型森林管理への理解向上に寄与する研修や指導等が行われた。

第4章 評価5項目における評価結果

4-1 妥当性

以下の理由により、本プロジェクトの妥当性は高いと判断される。

- (1) 政府の政策との整合性：オロミア州の州令 No. 72/2003 には「オロミア州の州森の開発、保全、管理に関して、当局は森林開発と保全に関するコミュニティを強化してこれを行わなければならない」と記載されており、住民参加型の森林管理契約はオロミア州の法律・政策と整合している。こうした理由から、オロミア州は森林管理仮契約を承認した。
- (2) 住民のニーズ：終了時評価調査の際に行われた住民へのインタビュー調査によると、回答者はすべて、森林管理仮契約によって自分たちが森に住んで利用する権利が確保された、と非常に満足していた。
- (3) わが国の援助政策との整合性：地域住民の参加による自然資源の管理は、JICA のエチオピアに対する重点援助分野「農業・農村開発」の柱の一つである。
- (4) プロジェクトのアプローチの整合性：オロミア州政府は「天然林は地域住民の参加によって守られるべきである」という信念をもっており、プロジェクトの活動成果によってこれがさらに強化された。

4-2 有効性

プロジェクトの有効性は高い。森林管理仮契約の実施を通じて参加型森林管理システムはほぼ完成しており、まもなく正式の森林管理契約の締結若しくは仮契約の延長へと進むことが見込まれていることから、アウトプット5がほぼ達成されつつある。アウトプット1~4はプロジェクト目標の達成にそれぞれ寄与し、アウトプット6は今後の上位目標の達成への道筋を作っている。

4-3 効率性

プロジェクトの効率性はあまり高くなく、以下の問題が指摘される。

- (1) 短期専門家の TOR がエチオピア側カウンターパートと日本人専門家の間で十分な協議がなされないまま、専門家がリクルートされて派遣された。
- (2) オートバイが供与されたもののカウンターパートのほとんどが免許を取得していない（間もなく取得予定）また、供与された GIS 機材や GPS の使い方をカウンターパートが習得していない、といったことにより、一部の機材が有効に活用されていない。
- (3) すべてのカウンターパートが、自らの所属先の行政事務とプロジェクト関連活動の両方の職務を遂行していることから、プロジェクトに十分な時間を割くことができず、プロジェクトの

円滑な遂行が若干滞った。

4-4 インパクト

プロジェクトのインパクトについては、以下のような正のインパクトが確認されており、非常に高いといえる。負のインパクトはこれまでのところ観察されておらず、予見もされない。

(1) 上位目標へのインパクト：プロジェクト対象村落の周辺村落の住民が、森林管理仮契約に高い関心をもって、自らも森林管理組合を形成する希望を有していることから、森林管理契約ないし森林管理契約が、今後ベレテ・ゲラ優先森林地域内で拡大していくことが見込まれる。

(2) 他のインパクト

プロジェクト終了まで3ヶ月を残すが、すでに以下のような幾つかのインパクトが観察される。

実施機関・カウンターパートへのインパクト：

- プロジェクトにおける研修、ワークショップ等を通じ、参加型森林管理に関わるカウンターパートの意識が向上し、より積極的にプロジェクトの運営に関わるようになった。

住民・地域社会へのインパクト：

- 住民に対するインタビュー調査によると、アファロ小集落の製粉機の供与や、チラとナソ川間の道路の補修が、地域の住民の収入増加につながっている。また、改良養蜂箱の普及により、蜂蜜生産量の増加および収入向上が期待される。
- 森林管理仮契約の締結と実施は、森林管理組合の参加メンバーに、森林内に住み、森林を利用する権利が公式に確保されたとの安心感をもたらした。
- 森林管理仮契約の締結や改良養蜂箱の配布を通じて、森林に自分達の生活が大きく依存していることを強く意識するようになり、森林保全への意識が高まっている。
- 周辺の村落の多くの住民が森林管理仮契約を結びたいと考えており、森林管理契約のインパクトの大きさが表れている。

4-5 自立発展性

以下の理由により、プロジェクトの財務的、技術的自立発展性は評価時点では低いと判断される。ただし、意識面においてカウンターパートおよび住民の双方において向上が見られており、今後、自立発展性を向上させていく基盤が整いつつあるといえる。

(1) 組織面：

(行政側)ゾーンと郡政府の行政能力は未だ低く、独自で森林管理契約を他の地域に拡大していただくだけの運営・組織能力をもっていない。また、森林管理仮契約はまだ試行後1年

しか経ておらず、森林管理組合や農業・村落開発事務所のスタッフの能力は一層強化されなければならない。さらに、参加型森林管理のガイドラインが州レベルにおいてまだ策定されておらず、制度面でも脆弱である。

(住民側) モニタリング活動等を通して森林管理組合の組織能力は高まってきつつあるものの、自立的な活動運営のためには、適切な支援による更なる能力強化が必要である。

(2) 財政面 :

(行政側) 本プロジェクトの実施中、エチオピア側はカウンターパートの給料以外のローカルコストをほとんど負担していない。従って、プロジェクトの活動を他の村落に拡大していくことは、州の財政能力では極めて困難な状態にある。

(住民側) 対象村落においては、改良養蜂箱の普及や製粉機の設置により、収入の増加が見込まれる。ただし、住民が持続的に森林管理契約を遵守し、適切に森林を保全していくためには、今後も安定した収入が得られ、過度の森林利用や農地拡大に至ることなく生計を維持できることが望ましい。持続的な生計や収入の安定を図るためには、気候や市場における不測の事態(天候不順やコーヒー価格の下落等)に対しても村落全体として自立的に協働して対処できるよう、森林管理契約の履行や組織活動を通じた組織力の向上及び脆弱性の克服が課題である。

(3) 技術面 :

(行政側) カウンターパートの技術レベルに顕著な向上がみられるものの、日本人専門家の支援なしに、住民と対話しつつ森林管理契約の締結を進めていくことは未だ困難な状況である。自立的に住民と協議し、支援できるための一層の技術向上が求められる。

(住民側) 対象小集落において、これまで3回の合同モニタリングを実施したが、未だ住民が自立して継続的に実施できる状態ではない。今後の継続的なモニタリングの実施により能力向上を図るとともに、モニタリング方法の簡素化・定式化を進めることにより、住民の自立性を促進するための環境の整備が必要である。さらに、住民が実施する森林管理活動に対し、行政側による適時、適切なアドバイスできるようにするために、カウンターパートの技術を向上させること及び住民との連携を強化することが不可欠である。

(4) 意識面 :

(行政側) カウンターパートの意識が向上し、積極的にプロジェクト運営に関わるようになってきている。このことにより、今後も森林管理モニタリング活動を住民と協働で行うことにより、自立的に住民を支援するための能力向上および連携強化に繋げていくことが期待できる。

(住民側) 森林管理契約の締結や改良養蜂箱の配布を通じて、自分達の生活が森林に大きく依存していることを強く認識するようになり、森林保全への意識が高まっている。また、ベレテにおいてはチャフェ小集落を含む大集落(メティ・ジガ)の住民が一致協力して製粉機を設置したことから、この組織活動による経験および森林管理契約という規範を通じ、自然資源を共同で利用・管理していくための能力開発につながってきている。

第5章 評価結果の結論

これまでに述べたように、プロジェクトのアウトプットはそのほとんどが達成され、プロジェクト目標もほぼ達成されたといえる。対象2小集落において森林管理仮契約が締結され、それに基づいて森林管理組合の形成・モニタリング活動が継続して行われていることから、住民が参加型森林管理を持続的に実施するためのシステムが確立されつつある。

評価5項目については、それぞれ次の通りである。(1)妥当性：エチオピア政府の政策、住民のニーズ、日本の援助政策と、それぞれ整合していることから、プロジェクトの妥当性は高い。(2)有効性：参加型森林管理システムは實際上ほぼ完成しており、プロジェクトの有効性は十分である。(3)効率性：供与機材が必ずしも有効に使われておらず、プロジェクトの効率性はあまり高くない。(4)インパクト：地域住民に、森林内で暮らし且つ森林を利用する上での安心感をもたらしており、プロジェクトのインパクトは非常に高い。(5)自立発展性：制度面、財政面、技術面の持続性に欠け、プロジェクトの自立発展性は、評価時点では低いと判断される。ただし、意識面においてはカウンターパートおよび住民の双方において向上が見られており、今後、自立発展性を向上させていく基盤が整いつつある。

第6章 提言と教訓

6-1 提言

評価結果に基づき、以下の「プロジェクト終了時まで実施すべき事項」および「プロジェクト実施後に実施すべき事項」に分け、プロジェクトへの提言をまとめた。加えて、今後の参加型森林管理面での取組みについて、留意すべき課題を示す。

6-1-1 プロジェクト終了時まで実施すべき事項

(1) 残りの活動の完了

プロジェクトで計画し、まだ終了していない活動については、プロジェクト終了の2006年9月末までに完了することが求められる。しかしながら、今後のプロジェクトにおいて時間的にもマンパワー的にもかなり限られている状況を考慮し、特に以下の活動に集中して取り組むことが望ましい。

- 森林管理仮契約の締結までのプロセスにおける経験や教訓を整理するとともに、2006年8月に期限が切れる森林管理仮契約の本契約化若しくは仮契約延長を支援する。
- 他ドナー、NGO、政府関係者を招いて公開セミナーを実施する。

(2) プロジェクト機材の引渡し

供与機材をエチオピア側に引渡し、適切に記録・管理されるための体制を築く。

6-1-2 プロジェクト終了後に実施すべき事項

(1) フェーズ プロジェクトの実施

現行プロジェクトの財政面における自立発展性を確保するため、エチオピア側による以下の負担事項が2006年9月15日までに確認されることを条件として、フェーズ プロジェクトを実施する。

- カウンターパートの給与及び出張旅費
- プロジェクト関連施設における補助スタッフ（警備員等）の給与の50%
- ベレテおよびゲラに配置された車両4台のドライバーの給与
- ジンマゾーン森林管理訓練センター、ベレテ及びゲラの森林管理普及センターにおける電気、水道及びガスの費用

上記の財政負担に加え、フェーズ プロジェクトの第1年次終了までに、以下の費用についてもエチオピア側が負担することとする。

- ベレテ・ゲラでのプロジェクト活動に使用されている平型トラック2台およびハードトップワゴン2台の車両燃料費の25%
- ジンマゾーンのカウンターパートが使用する車両燃料費の10%

フェーズ プロジェクトの第1年次終了に際して、JICAは運営指導調査団をエチオピアに派遣し、上記の条件の履行を確認したうえで、プロジェクト継続の可否を判断する。

フェーズ プロジェクトの現時点での案は、以下のような内容である。

プロジェクト名：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ

プロジェクト目標：ベレテ・ゲラ森林優先地域内の対象地域において、参加型森林管理が持続的に実施される。

ターゲットグループ：対象地域におけるコミュニティー

ターゲットエリア：ベレテ・ゲラ森林優先地域内における対象地域

プロジェクト期間：4年間（第1ステージ：1年、第2ステージ：3年）

主な活動及びアウトプット：

第1ステージ

- (a) 森林管理仮契約のプロセスのとりまとめ及び関係者間の協議に基づき、州、ゾーン、郡の役割及び機能を盛り込んだ参加型森林管理ガイドラインを整備する。
- (b) ベレテ・ゲラ森林優先地域内において参加型森林管理を普及するための調査及び計画策定を行う。
- (c) 森林官、開発普及員等およびベレテ・ゲラ森林優先地域内の村落代表者を対象に、参加型森林管理を紹介するためのセミナーを開催する。
- (d) プロジェクトの対象小集落における新管理契約の本契約化に加え、森林管理組合の組織能力強化をフォローアップする。
- (e) シャベ・ソンボ郡及びゲラ郡における森林官・開発普及員等を対象に、GPS測量に関する研修を実施する。
- (f) 開発調査「エチオピア国南西部地域森林保全計画調査」(国際協力事業団他、1998)の内容をレビューし、森林資源管理(森林資源の生産的利用)のための草案を準備する。

第2ステージ

- (a) 参加型森林管理普及のための対象地域を選択する。
- (b) 対象地域において基礎調査を実施する。
- (c) ベレテ・ゲラ森林優先地域内において参加型森林管理を普及する。
- (d) 補足的な森林インベントリー調査を行った上で、特定地域において住民参加による森林資源管理を計画・実施する。
- (e) オロミア州森林優先地域における参加型森林管理ガイドラインを整備する。
- (f) オロミア州農業・村落開発局(OARDB)及び農業・村落開発事務所(ARDO)におけるカウンターパートの能力を強化する。
- (g) 森林資源管理における住民の能力を強化する。

(2) オロミア州政府の主体性

プロジェクトの円滑な実施のためには、森林管理契約の本契約化、ガイドラインの認可、予算措置、カウンターパートの配置といったオロミア州政府の主体性が必要不可欠である。

6-1-3 参加型森林管理面における課題

(1) 森林管理計画の拡充

従来不法とされていた住民の居住を認めた上、伝統的に住民により行われてきたコーヒー、香辛料、養蜂活動等を利用した森林管理の手法を仮契約により認めたことが、住民に大きな安心感を与え、森林管理の責任について意識向上も図ることができた。しかしながら、現状の森林管理仮契約は、区域の外周、および農耕地と集落、森林の境界を決めた上で、簡単な森林利用の規則を決めた比較的簡素なものであり、現状の森林利用における追認が主となっている。よって、未だ森林管理計画として十分な内容には至っておらず、今後の人口増加などの要因に対応可能かどうか疑問もあり、将来的な持続性について課題が残る。森林管理計画として十分な機能を果たすためには、コーヒーや香辛料の採取、養蜂活動の個々に関する利用計画に加え、択伐や植林などの施業計画についても規定し、内容の拡充を図ることが望ましい。

(2) 政府における支援体制

本プロジェクトにおいては、将来的な普及へのモデル化も考慮し、比較的条件の良い天然林も対象にした参加型森林管理手法の確立を図った。今後、森林管理（仮）契約の運用を通じて必要な改善や内容の拡充を図るとともに、政府が制度として明確に方針化し、適用可能な地域に普及することの支援が課題の1つとなるだろう。その際、現状の（仮）契約はいわば比較的優良な伝統的森林利用の現状追認であるが、将来の人口増加等を考慮した持続性の確保や他の森林タイプ（例えば、より条件が悪く森林コーヒーが育たない荒廃林、竹や樹脂等の非木材生産物を有する森林、人工林）を含む村落については、これまでの現状追認型に若干修正を加え、植林による普及や木材生産等のより積極的な土地利用計画を含めたシステムの構築を、平行して進めることが必要になるであろう。参加型開発の面における引き続きの支援に加え、森林管理計画の拡充に関わる技術的な強化が望まれる。

(3) 計画策定におけるプロセスの明確化

計画策定においては、大まかに、現状分析、改善・変化のための代替案作成、代替案の分析、最適案の決定、計画の決定といったプロセスを踏むことが多い。本プロジェクトの場合、現状の森林管理手法や利用状況について、十分に現状分析ができていたかどうか課題が残る。今後の面的展開を目指す上では、詳細な現状分析と評価、その結果として導き出される改善策と代替案の検討、方策の決定といったプロセスを明確にしておく必要があるであろう。これまでの本プロジェクト経験に基づく現状モデルを普及するにあたり、明確なプロセスを含む計画策定マニュアルを備えるとともに、計画目的や方向性が示された発展性・柔軟性のあるモデルとして改善を図ることが望ましい。

6-2 教訓

(1) プロジェクト管理における改善

- (a) 日本語版の PDM にはアウトプット指標の一部に期限が示されているが、英語版の PDM にはそれが明記されていなかった。プロジェクト関係者で活動の進捗を明確にし、定期的にモニタリングするために、活動とアウトプットの期限を PDM（日本語、英語）に明記すべきであった。
 - (b) 終了時評価調査に先立ち評価グリッドの内容についてプロジェクトに確認したところ、活動やアウトプットの進捗や達成状況について、関係者間および専門家内においても認識の不一致があり、プロジェクト全体としての見解を得るのに時間を要した。定期的に PDM に基づいたモニタリングが実施されていれば、こうしたプロジェクトの最終段階になって認識の違いが生じていることにならず、より効率的な活動の実施に寄与できたと考えられる。
 - (c) これまでの本プロジェクト期間を通じ、PO や PDM の変更はなされなかった。しかし、プロジェクト初期の活動に遅れが生じた他、アウトプット 4 にかかる活動（村落振興活動）の内容や指標が具体化されないなど、変更が適切であったと思われる事項は幾つか見受けられた。プロジェクトの進捗に応じて PO や PDM の内容をチェックし、関係者間で変更が必要と判断されれば、改定のための合意・手続きをするべきであったと考える。
 - (d) カウンターパートへのインタビュー結果において、「プロジェクト活動や短期専門家の業務内容について、十分な説明や合意がないままに進められた」という指摘があった。今後、プロジェクトの意思決定や運営において、カウンターパートが効果的に関わることができるための仕組みと状況を整備し、短期専門家の TOR についても十分に説明・協議しながら進めることが望ましい。
 - (e) 短期専門家の報告書が日本語のみでしか作成されていないなど、その活動内容や成果がカウンターパートへ十分に伝えられていなかった。プロジェクト関係者に情報や成果が効果的に共有されるよう、日本人専門家の報告書を英語で記載、あるいは英文サマリーを作成するなどし、カウンターパートに配布することが求められる。
- (2) GTZ が支援したアダバ・ドドラ森林管理計画プロジェクトを見学したことが、プロジェクト関係者に対して参加型森林管理のイメージを具体化させるなど、大きな契機の一つになったようである。類似プロジェクトを見学する機会をプロジェクト初期段階に設け、関係者の意識向上を図ることにより、後々のプロジェクト活動を効果的に進めることが期待できる。
 - (3) 本プロジェクトにおける参加型森林管理計画は、村落振興活動を通じた自然資源管理能力の向上もねらいとしていることから、原則として、この村落振興活動は森林管理と同じレベル（村落・集落等）で実施されるべきである。ただし、ベレテ森林の対象村落とされたサバカ・ダビエのように大集落（メティ・ジガ）を形成しているような地域においては、その 1 集落であるチャフェを森林管理契約の対象としたものの、製粉機の設置など村落振興活動については大集落の住民が協力して実施している。現地の社会状況や慣習を十分に把握した上で、対象地のレベルを判断することが望ましい。
 - (4) 運営指導調査を実施して報告書も作成されたが、調査においてミニッツを締結した内容はその報告書に記載された一部に過ぎず、運営指導調査における成果や提言がプロジェクト関係者へ十分に伝えられていなかったと懸念される。本来、運営指導調査団による提言は、プロ

プロジェクト中間地点における問題点やその後の進め方に関する留意事項について双方関係者が共通に認識すべき重要事項であり、協議結果を踏まえて必要な事項についてはミニッツに添付するなどして調査時点で合意形成するとともに、その後関係者が適切にフォローアップするための材料として有効活用される必要がある。

第7章 総括報告

7-1 プロジェクトの目標達成状況

これまで述べてきたように、本プロジェクトでは、WaBuB（住民グループで組織された森林管理組合）による参加型森林管理のシステムが確立されつつあり、実際に2つの対象集落において、住民自身によるモニタリング等の森林管理が行われていることから、プロジェクトの目標はほぼ達成したと判断した。

実際に、活動の実施状況やアウトプットにおける指標の達成状況を個別に見てみると、人材育成に係る研修計画の策定やその実施、あるいは境界線決定に関する外部の住民との合意形成等、一部に完全に実施または達成されていない項目があるのも事実である。そのために、現地で合意した合同評価報告書には「ほぼ」(mostly)という修飾語がついているが、個々の活動の実施や、アウトプットの達成はプロジェクト目標を達成するためのプロセスであり、広い目で見ると、対象集落における持続的な参加型森林管理が行われている段階に達しているといえる。

逆に、ゼロからスタートして、3年間の短い協力期間で、当初のオロミア州政府のプロジェクトに対する消極さ、カウンターパートの配置の少なさや兼務による多忙、ほとんどゼロに近い先方のコスト負担、首都から遠く離れた現場の不便さ等の問題を抱えながらも、オロミア州政府、現場のカウンターパート職員、地域住民が、それぞれの立場から本プロジェクトの有効性を認識させるまでに至ったことは、特筆に価する。

7-2 プロジェクトの自立発展性

一方、今回の評価では、自立発展性について厳しい評価をせざるを得なかった。本プロジェクトが予定通り2006年9月30日に終了し、活動をエチオピア側に引き渡した場合、2つの対象集落における森林管理がある程度は継続、発展する可能性はあるものの、向上したとはいえ、先方の組織や技術、それに財政負担能力を考えると、上位目標であるWaBuBによる参加型森林管理がベレテ・ゲラ森林優先地域全体に広がっていく可能性はかなり低いと言わざるを得ない。さらに、プロジェクトで供与したGIS、GPS等の機材や建設した3つの建物が、適正に利用、維持管理されるのかも残念ながら疑わしい。そのため、これまでのプロジェクトの成果をもとに、参加型森林管理を拡大していくとともに、プロジェクトの自立発展性を確保することも、次期フェーズプロジェクトにおいて大きな課題となる。

7-3 フェーズ プロジェクトについて

提言の項で記したように、フェーズ プロジェクトの協力期間は4年間とし、当初の1年間(第1ステージ)ではこれまでの活動の実績や経験の整理、WaBuBによる参加型森林管理のシステムの完成、ガイドラインの作成、その後の拡大戦略の策定を行い、また、現プロジェクトで事業を行っている2集落の活動のフォローアップを行う。その後の3年間(第2ステージ)ではベレテ・

ゲラ森林優先地域内の他地域への活動の拡大を行っていくことになる。

一方、プロジェクトの自立発展性を確保するため、プロジェクト開始前と開始1年後にエチオピア側の財政負担の条件を課し、それがクリアされなければ、プロジェクトを実施または継続しないことで先方と合意した。この条件は先方と話し合っ、現状よりは進歩し、かつ実現が不可能ではないものとしており、このことが将来的に、本当にプロジェクト活動を先方に引き渡した際の自立発展性の確保につながると考えられる。

先方の考える具体的な財源としては、政府の通常予算だけではなく、とりあえずは、人工造林地の木材販売収入が見込まれること、長期的には、プロジェクトで住民を取り込んだ造林事業を行い、そこからの収入を得られることを期待しているようである。

このように、現地の日本人専門家が驚くほどエチオピア側が経費負担に関して積極的な姿勢を示したのは、プロジェクトの進捗にしたがって目に見える成果が表れ、先方のプロジェクトに対するオーナーシップの意識が向上したこと、及び、評価をエチオピア側評価団員やカウンターパートと一緒に進んでいく過程を通して、プロジェクトの自立発展性の重要性が認識されたからと思われる。この財政負担の条件がクリアできずに、プロジェクトが停止することは日本側の本意でなく、是非とも、エチオピア側の努力によって条件をクリアし、プロジェクトが継続されることを望むものである。

附 属 資 料

- 1 . 調査日程
- 2 . 主要面談者リスト
- 3 . 合同評価報告書（ミニッツ）
- 4 . 質問票

調査日程

附属資料1

日時	調査団員			
	勝田団長 (総括)	柴田 (参加型森林管理)	吉倉 (評価計画)	森 (評価分析)
6/4 日 1				移動[18:55成田発(JL707)→23:25/バンコク着]
6/5 月 2				移動[2:00/バンコク発(ET607)→6:30アジス着] ・調査方針協議(エチオピア事務所) ・オロミア州政府表敬 ・Deputy/Project Director聞き取り
6/6 火 3				移動[11:10アジス発→11:55ジンマ着] ・ジンマゾーン行政表敬 ・Project Manager聞き取り
6/7 水 4				・プロジェクト専門家協議・聞き取り 移動(ジンマーゲラ森林)
6/8 木 5				・森林普及センター視察 ・現地調査(アフアロ集落) ・C/P(Gera ARDO)及び住民組織聞き取り 移動(ゲラ郡→ジンマ)
6/9 金 6				移動(ジンマーベレテ森林/シャベ) ・森林普及センター視察 ・C/P(Shabe ARDO)及び住民組織聞き取り 移動(ベレテ森林/シャベ→ジンマ) ・C/P(Seka ARDO)聞き取り
6/10 土 7				C/P(Gera ARDO)聞き取り ・プロジェクト専門家協議
6/11 日 8	移動[18:55成田発(JL707)→23:25/バンコク着]			・報告書作成
6/12 月 9	移動[2:00/バンコク発(ET607)→6:30アディスアベバ着] ・JICAエチオピア事務所協議 ・オロミア州政府表敬			・評価グリッドに関する協議
6/13 火 10	・プロジェクト専門家協議			評価グリッドに関する協議
6/14 水 11	移動[7:10アディスアベバ発→7:55ジンマ着] 移動(ジンマーゲラ森林) ・現地調査(アフアロ集落)及び住民組織によるモニタリング報告・聞き取り			
6/15 木 12	移動(ジンマーベレテ森林/シャベ) ・現地調査(チャップフェ集落)及び住民組織によるモニタリング報告・聞き取り			
6/16 金 13	・評価グリッドに関する合同協議			
6/17 土 14	・評価グリッドに関する合同協議 移動[16:00ジンマ発→16:45アディスアベバ着] ・評価レポート作成			
6/18 日 15	・評価レポート作成			
6/19 月 16	・オロミア州政府表敬、評価レポート案提出 ・評価レポートに関する協議			
6/20 火 17	・評価レポートに関する協議 ・評価レポート(最終版)作成			
6/21 水 18	・第3回合同調整委員会(結果報告・ミニッツ署名) ・JICAエチオピア事務所報告 ・日本大使館報告			
6/22 木 19	・JICAエチオピア事務所協議	移動[23:40アディス発 →12:35/バンコク着]		移動[23:40アディス発(ET606) →12:35/バンコク着]
	移動[14:35アディス発(KQ403) →16:35ナイロビ着]	移動[22:15/バンコク発 →6:20成田着]		移動[22:15/バンコク発(JL718) →6:20成田着]
6/23 金 20	・ケニア事務所打ち合わせ			
6/24 土 21	移動[17:15ナイロビ発(EK720) →ドバイ・関西経由 →19:55羽田着(JL1316)]			
6/25 日 22			移動(23:40アディス発)	

<在エチオピア日本国大使館>

泉 堅二郎	特命全権大使
石塚 広志	書記官

<JICA エチオピア事務所>

斉藤 直樹	所長
本間 穰	所員

<プロジェクト専門家>

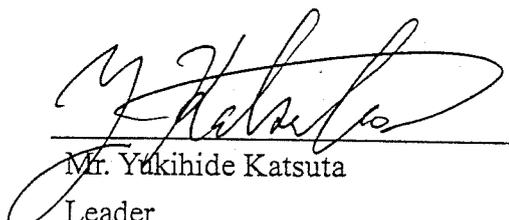
久田 信一郎	チーフアドバイザー/情報管理
杉田 英二	参加型森林管理/業務調整
西村 勉	村落振興
柿崎 芳明	村落開発 (短期専門家)

**MINUTES OF JOINT EVALUATION
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PARTICIPATORY FOREST MANAGEMENT PROJECT IN BELETE-GERA
REGIONAL FOREST PRIORITY AREA IN THE OROMIA REGION OF
THE FEDERAL DEMOCRATIC REPUBLIC OF ETHIOPIA**

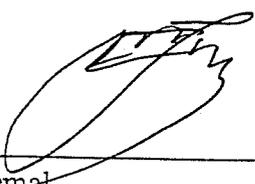
The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Japanese Team”) organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Yukihide KATSUTA, visited the Federal Democratic Republic of Ethiopia from 4 to 24 June, 2006 for the purpose of conducting terminal evaluation of the Participatory Forest Management Project in Belete-Gera Regional Forest Priority Area in the Oromia Region of the Federal Democratic Republic of Ethiopia (hereinafter referred to as “the Project”).

This evaluation was conducted by the Joint Evaluation Team, which consists of the Ethiopian evaluation team and Japanese evaluation team (hereinafter referred to as “the Team”). As a result of a series of surveys and discussions, the Team agreed to forward respective Governments an Evaluation Report, which is referred to in the attached hereto.

Addis Ababa, 21 June, 2006



Mr. Yukihide Katsuta
Leader
Japanese Terminal Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mr. Diribu Jemal
Project Director
Head, Natural Resource Management and
Rural Land Administration Sector
Oromia Regional Government
The Federal Democratic Republic of Ethiopia

JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT

ON

Participatory Forest Management Project

in Belete-Gera Regional Forest Priority Area

in

the Oromia Region

of the Federal Democratic Republic of Ethiopia

Addis Ababa, 21 June, 2006

CONTENTS

1. Introduction	1
1-1 Objectives of the evaluation	1
1-2 Members of the joint evaluation team	1
1-3 Schedule of the evaluation study	2
1-4 Status of the report.....	2
2. Outline of the Project.....	2
2-1 Background of the Project.....	2
2-2 Summary of the Project.....	2
3. Methodology of evaluation.....	3
3-1 Evaluation questions and indicators	3
3-2 Data collection method and analysis	4
3-2-1 Data collection method	4
3-2-2 Items of analysis.....	4
4. Project performance and implementation process	5
4-1 Input	5
4-2 Activities.....	5
4-3 Output.....	5
4-4 Project purpose	7
4-5 Overall goal	7
4-6 Implementation process.....	8
5. Evaluation based on the five evaluation criteria.....	8
5-1 Relevance	8
5-2 Effectiveness.....	9
5-3 Efficiency	9
5-4 Impact.....	9
5-5 Sustainability.....	10
6. Conclusions of evaluation	10
7. Recommendations	11
7-1 Matters to be addressed by the termination of the Project	11
7-2 Actions to be taken after the termination of the Project.....	11
8. Lessons learnt	13



ANNEX

ANNEX-1	Schedule of the Joint Evaluation.....	14
ANNEX-2	List of the Persons Consulted.....	15
ANNEX-3	Project Design Matrix	17
ANNEX-4	Evaluation Grid with Findings	19
ANNEX-5	Record of Project Performance	
	-a. Plan of Operation (Planned and Actual).....	32
	-b. Accomplishment Grid.....	34
ANNEX-6	Record of Implementation of Input	
	-a. List of Dispatched Japanese Experts and Mission Teams.....	39
	-b. List of Counterpart Assigned	40
	-c. List of Counterpart Training	41
	-d. List of Seminars and Workshops Conducted	42
	-e. List of Maps Produced.....	44
	-f. List of Machinery and Equipment Provided.....	45
	-g. List of Facilities Constructed.....	48
ANNEX-7	Methodology of Questionnaire Survey to Local People	49
ANNEX-8	Organizational Structure	50



ABBREVIATIONS

ARDO	Agriculture and Rural Development Office
C/P	Counterpart
FMA	Forest Management Agreement
JCC	Joint Coordination Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
M/M	Minutes of Meeting
OARDB	Oromia Agriculture and Rural Development Bureau
ODA	Official Development Assistance
PDM	Project Design Matrix
PFM	Participatory Forest Management
P-FMA	Provisional Forest Management Agreement
PO	Plan of Operation
P3DM	Participatory three-dimensional Model
R/D	Record of Discussions
RFPA	Regional Forest Priority Area
TOR	Terms of Reference
WaBuB	Waldaa Bulchinsaa Bosonaa: Forest Administration Association

1. Introduction

1-1 Objectives of the evaluation

The evaluation activities were performed with the following objectives:

- (1) To verify the accomplishments of the Project compared to the plan;
- (2) To identify promoting and/or prohibiting factors;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria (i.e. Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability); and
- (4) To make recommendations on the remaining Project activities and the actions to be taken after the termination of the Project.

1-2 Members of the joint evaluation team

- (1) The Japanese side
 - (a) Mr. Yukihide Katsuta (Leader)
Group Director, Group1 (Forestry and Natural Environment),
Global Environment Department, JICA
 - (b) Dr. Shingo Shibata
Senior Officer, International Forestry Cooperation Office,
Forest Agency, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
 - (c) Mr. Toshihide Yoshikura
Forest Conservation Team 2, Global Environment Department, JICA
 - (d) Mr. Shinichi Mori
President, International Management Group Inc.
- (2) The Ethiopian side
 - (a) Mr. Nugusu Feyisa (Leader)
Team Leader, Wildlife Conservation Team, OARDB
 - (b) Mr. Tibebu Tadesse
Team Leader, Forest Conservation Team, OARDB
 - (c) Mr. Siraj Kedir
Director, Planning, Inspection & Statistics Directorate of Oromia Regional Government's
President Office



1-3 Schedule of the study

The Japanese evaluation team arrived in Ethiopia on 5 June, 2006 (Mr. Mori) and on 12 June, 2006 (other members). Both Japanese and Ethiopian evaluation teams conducted interviews and a field survey from 6 to 15 June. Based on their results, the teams jointly prepared a draft report, and elaborated it through a series of discussions among the Teams and persons concerned with the Project, from 16 to 20 June. The details of the schedule are attached in Annex 1.

1-4 Status of the report

This evaluation report was finalized by the Joint Evaluation Team.

The Joint Coordination Committee (JCC) was held on 21 June 2006 and the contents of the report was delivered to and shared by the JCC members.

2. Outline of the Project

2-1 Background of the Project

The decline of forest in both area and quality is most evident in the central highland of Ethiopia, and is gradually spreading to the southwestern part where relatively dense forests are still remaining. Currently, Oromia Region represents approximately 70% of the forest resources of the country, however, its closed high forests are diminishing due to shifting cultivation, fuel wood collection, urbanization, forest fires, poor utilization logging etc. Unless effective measures are taken, the forest resources would disappear in a few decades.

In this context, the Oromia Regional Government in Ethiopia requested to the Government of Japan for technical cooperation on the Project. In respond to the request, the Government of Japan, through JICA, dispatched the preliminary study team in December 2002 to discuss and agree with the Ethiopian authorities upon the framework of the project implementation. In September 2003, Record of Discussions (R/D), which officially determines the framework of the Project, was signed and the Project was commenced from October 1, 2003 to be completed in three years.

2-2 Summary of the Project

The objectives and output of the Project stated in the R/D are as follows:

Overall goal: Forest management is sustainably carried out by the local people in and

around the Belete-Gera Regional Forest Priority Area (RFPA).

Project purpose: Participatory forest management is sustainably put in place in target villages (Ganda) in Belete-Gera RFPA.

- Output:
- (1) Target villages (Ganda) are selected based on a participatory manner such as workshop and inquiries.
 - (2) Capacity of technical experts and development agents over forest management, participatory planning, monitoring and evaluation is strengthened.
 - (3) Boundaries regarding forest management and land use in the target villages (Ganda) are agreed upon by all of the major stakeholders.
 - (4) Capacity of the local people in the target villages (Ganda) for natural resource management is strengthened.
 - (5) Appropriate systems of participatory forest management in the Belete-Gera RFPA are clarified.
 - (6) Information and lessons learned on participatory forest management are shared among the stakeholders.

3. Methodology of evaluation

In the first step of evaluation, the Team assessed the degree and prospects of achievement of the project purpose and output based on the Project Design Matrix (PDM) attached as Annex 3 by utilizing the progress reports, other reports, questionnaires, interviews, etc.

In the second step, the Team analyzed and evaluated the Project from the viewpoints of "Relevance", "Effectiveness", "Efficiency", "Impacts" and "Sustainability".

Finally, the team made conclusions and recommendations of the Project, and identified the lessons learned from the evaluation.

3-1 Items evaluated and indicators

The evaluation grid with findings is attached as Annex 4, which was developed and finalized through discussions by the evaluation team and concerned persons.



3-2 Data collection method and analysis

3-2-1 Data collection method

(1) Interviews

The Team carried out a field survey in the Project site in Belete and Gera, and conducted interviews with the Ethiopian counterpart, the Japanese experts engaged in the Project and other people concerned including WaBuB members.

(2) Questionnaire survey

The Team also collected information through a questionnaire survey with concerned persons including WaBuB members and residents in adjacent villages. (The methodology of the questionnaire survey to local people is attached in Annex 7.)

3-2-2 Items of analysis

(1) Project performance

Progress of each project activity was identified through the study. Based on the results, achievement of the outputs and the project purpose was measured in terms of the objectively verifiable indicators of the PDM.

(2) Implementation process

Implementation process of the Project was reviewed to see if the activities have been implemented according to the schedule, and the Project has been managed properly; and to identify promoting and/or prohibiting factors that have affected the implementation process.

(3) Evaluation based on the five evaluation criteria

(a) Relevance

Relevance of the Project was reviewed and justification of the project purpose and the overall goal in connection with the needs of the beneficiaries, policies of Ethiopia and Japan are verified.

(b) Effectiveness

Effectiveness was assessed by evaluating the extent to which the Project has achieved and contributed to the beneficiaries.

(c) Efficiency

Efficiency of the project implementation was analyzed focusing on the relationship between the output and input in terms of timing, quality, and quantity.



(d) Impact

Impact of the Project was identified and/or forecasted by referring to direct and indirect, positive and negative impacts caused by the Project.

(e) Sustainability

Sustainability of the Project was forecasted in organizational, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievement of the Project will be sustained and/or expanded after the Project is completed.

Note : The impact and sustainability are evaluated and forecasted at this moment since the Project is still underway and some achievements may be made by the end of the Project or after the project implementation.

4. Project performance and implementation process

4-1 Input

The Team confirmed that most administrative and operational cost that the Ethiopian side was supposed to provide in accordance with the R/D and PDM had been borne by the Japanese side. The detail of the input is shown in Annex 6.

4-2 Activities

The team confirmed that the Project had conducted most of the activities up to this time in accordance with the PDM and PO, although implementation of some of the activities was delayed. Furthermore, some activities such as formulation of training (Activity 2-2), GPS training course (Activity 2-7) were not conducted. The details of the progress of the activities are shown in Annex 5.

4-3 Output

The Team confirmed that the Project had fulfilled the following output in accordance with the R/D and PDM (The achievement of the output by indicators in the PDM is shown in Annex 5.):

Output 1: Target villages (Ganda) are selected based on a participatory manner such as workshop and inquiries.

From the perspective of social coherence, sub-villages (Shane/Jiga) -a social unit- were considered appropriate as the unit to form WaBuBs. On the other hand, Ganda plays a role



to support the forming process of WaBuB as an administrative body. Therefore, it was decided that sub-villages -a social unit- be targeted. Taking into consideration the implementing capacity of the Project, two sub-villages, Afalo and Chaffee, were selected through a participatory baseline survey, workshops and mutual consultations with district administration. The selection of the target sub-villages took more time than initially planned since consensus between stakeholders could not be easily achieved.

Output 2: Capacity of technical experts and development agents over forest management, participatory planning, monitoring and evaluation is strengthened.

Although specific training programs were not prepared by the Project as planned, C/P's awareness, knowledge and understanding on participatory forest management (PFM) have been significantly improved through training in foreign countries, a series of workshops and day-to-day management of the Project. Among others, training on participatory natural resource management in the Philippines and Thailand contributed to the strengthening of the C/P's capacity.

Output 3: Boundaries regarding forest management and land use in the target villages (Ganda) are agreed upon by all of the major stakeholders.

Through workshops and a GPS survey, provisional boundaries were settled among the villagers of the target sub-villages. Since the boundaries were not clearly recognized by all stakeholders and were difficult to be agreed upon, the Project made a decision to postpone achieving consensus on boundaries with adjacent villages and move forward the P-FMA process. Participatory three-dimensional model workshops were held in Afalo and Chaffee in February 2006 in order to confirm the land use and provisional boundaries.

Output 4: Capacity of the local people in the target villages (Ganda) for natural resource management is strengthened.

WaBuB's capacity has been strengthened through the implementation and monitoring of the P-FMAs: Executive committee that represents WaBuB members was held every month in each sub-village; three sessions of joint monitoring for the P-FMA by WaBuBs and ARDOs were conducted in December 2005, March and June 2006; and the subsidiary by-laws of the P-FMAs, which were initially formulated in January 2006, have been continuously modified as a result of joint monitoring sessions.



Output 5: Appropriate systems of participatory forest management in the Belete-Gera RFPA are clarified.

Establishment of a PFM system requires formalization of FMAs and preparation of the guideline and implementation strategy for WaBuB PFM in Belete-Gera Forest. Implementation/monitoring of the P-FMA and modification of the subsidiary by-laws are underway, of which the results will be reflected into the formal FMAs.

Output 6: Information and lessons learned on participatory forest management are shared among the stakeholders.

Information on project activities has been shared by other donors, NGOs and the Federal Government, through which awareness of the stakeholders toward PFM has been raised. Dissemination of lessons learned from the experiences of the Project is scheduled to be conducted by the end of the Project.

4-4 Project purpose

Project purpose: Participatory forest management is sustainably put in place in target villages (Ganda) in Belete-Gera RFPA.

The project purpose is mostly achieved since a system of PFM is mostly established in which P-FMAs were signed between the target sub-villages and the Oromia Regional Government, and WaBuBs, local peoples' forest administration associations, were created and are currently active to conduct monitoring of forest management based on the P-FMAs.

4-5 Overall goal

Overall goal: Forest management is sustainably carried out by the local people in and around the Belete-Gera Regional Forest Priority Area (RFPA).

It is estimated at the time of evaluation that the overall goal, extension of P-FMAs/FMAs to other villages in Belete-Gera RFPA, will be achieved in the long run since:

- Residents of three sub-villages (Garo, Arere, Ambalta) that constitute a social unit (Meti Jiga) together with Chaffee are interested in forming WaBuBs: 82 out of 94 households have already officially expressed their interest.
- The interview survey conducted on the occasion of the terminal evaluation showed the willingness of residents in adjacent villages to form P-FMAs.

4-6 Implementation process

Implementation process was evaluated based on the evaluation grid. (The detailed information on implementation process is shown in Annex 4.)

Some of the issues are highlighted as below:

- (1) It is perceived that Ethiopian C/P at all levels have not been sufficiently involved in the management and decision-making. In the beginning of the Project, Japanese experts took a lead in the operation of the Project. However, in accordance with the enhancement of awareness and attitude of the Ethiopian C/P toward PFM and with the progress of the Project, Ethiopian C/P have become more proactively engaged in the operation of the Project.
- (2) Although revenue-sharing was envisaged at the time of the signing of the R/D, the Project did not take this approach since OARDB's current administration does not have intention to extract revenues from natural forests, giving conservation of natural forests the highest priority.
- (3) JICA's Project Consultation Team dispatched to Ethiopia in November 2004 held discussions with Project's key persons, examined the progress of the Project and provided advice.

5. Evaluation based on the five evaluation criteria

Through the evaluation study, the Team assessed the project's relevance, effectiveness, efficiency, impact, and sustainability. (The detailed information on evaluation by five criteria is shown in Annex 4.)

5-1 Relevance

The Project is highly relevant for the following reasons:

- (1) Consistency with Ethiopian policy: PFM is consistent with the Forest Proclamation No. 72/2003 of the Oromia Region that stipulates: "Development and Protection of the State Forest in Oromia Region: concerning the protection, development and management of the State Forest in Oromia Region, the Authority shall strengthen community participation on forest development and protection".
- (2) Needs of local people: According to the interview survey to local people conducted on the occasion of the terminal evaluation, all of the interviewees are highly content with the

P-FMAs since the agreements secure local people their right to live in and use the forest.

- (3) Consistency with Japan's aid policy: Natural resource management programs with the participation of local residents are one of the focal areas in JICA's cooperation policy to Ethiopia.
- (4) Project approach: The Oromia Regional Government considers that natural forests in Oromia Region should be conserved through the participation of local residents. The achievements of this Project have strengthened this conviction.

5-2 Effectiveness

The effectiveness of the Project is good. The project purpose is mostly achieved; establishment of the PFM system and formalization of the FMAs will be completed to fully attain the project purpose (Output 5). Other Output 1, 2, 3, 4 have contributed to the attainment of the project purpose. Output 6 will contribute to the attainment of the overall goal.

5-3 Efficiency

The efficiency of the Project is moderate. The following drawbacks have been observed:

- (1) The Terms of Reference and work plan for short-term experts were not sufficiently discussed between the Ethiopian side and the Japanese side.
- (2) Some of the equipment and materials such as motorbikes and GPS were not utilized efficiently. Continuation of training on GIS is necessary in order to utilize the provided equipment.
- (3) Since all C/P were working both for the administration of their respective offices and for the Project, they could not allocate sufficient time for the Project, which somehow slowed down project activities.

5-4 Impact

Impact of the Project is highly positive as follows:

It was observed that no negative impacts were caused by the Project. The following positive impacts were identified:

- (1) Impact at the overall goal level: The overall goal will be achieved in the long run, since some indication of extension of P-FMAs/FMAs to other villages in Belete-Gera RFFPA was identified as described in 4-5.

- (2) Economic and financial impact: According to the interview survey, the repaired grain mill in Afalo and road rehabilitation between Chira Village and Naso River are contributing to the increase of income of residents in and around Afalo. It is expected that income from honey will increase shortly due to improved beehives distributed by the Project.
- (3) Social impact: The significant social impacts observed are the following:
- (a) WaBuB members are unanimously expressing their appreciation on the P-FMA since their right to live in and use the forest is now secured.
 - (b) Many residents in adjacent villages are expressing their keen interest to sign a P-FMA, showing the significance of the FMA's impact.
 - (c) The attitude of WaBuB members toward forest conservation has been enhanced since they have become more and more conscious that their life is dependent on the forest.
 - (d) Collective efforts by the residents in Meti Jiga on the occasion of the installment of the grain mill have lead to consolidation of their capacity on collective resource management.

5-5 Sustainability

In the time of the terminal evaluation study, sustainability of the Project is low especially in financial and technological aspects, namely:

- (1) Institutional aspects: The capacity of local administration in Zone and District levels is not sufficiently high to extend FMAs to other areas due to technical, managerial and administrative limitation. P-FMAs have been introduced only for a year; the capacity of WaBuBs and ARDOs needs to be further strengthened. Moreover, the guideline for PFM is not yet established at the Regional level.
- (2) Financial aspects: Although additional budget is needed to extend the activities to other villages, it is quite difficult due to the limited financial capacity of the Region.
- (3) Technological aspects: Although C/P's technical level has significantly upgraded, it needs further strengthening to support and facilitate local people for establishment and extension of FMAs.

6. Conclusions of evaluation

As described above, most of the outputs of the Project have been achieved. The project purpose is mostly achieved since a system of PFM is being established.

As for the five evaluation criteria: (1) the relevance of the Project is endorsed by the consistency

with the Ethiopian national policy, needs of local people, and the Japanese aid policy; (2) the effectiveness is good: the PFM system is practically complete; (3) the efficiency of the Project is moderate since some of the inputs were not well arranged; (4) Impact of the Project is highly positive, making local people feel secured of their right to use and live in the forest; and (5) sustainability is low from institutional, financial and technological perspectives.

7. Recommendations

The Team recommends Governments of Ethiopia and Japan following points based on the conclusions of evaluation.

7-1 Matters to be addressed before the termination of the Project

(1) Completion of the remaining activities

The Project is required to complete the remaining activities. However, considering the limited period to the termination and available human resources, efforts will be concentrated on the completion of the following activities:

- To review and compile the experiences and lessons learned in the P-FMA process, and assist the process of formalization/extension of the P-FMAs that will expire in August 2006, in order to complete Activity 5-1.
- To hold an open seminar inviting other donors, NGOs and the Federal Government (Activity 6-3).

(2) Handing over of the property of the Project to the Ethiopian side

All the property of the Project should be handed over to the Ethiopian side, and be recorded and managed properly.

7-2 Actions to be taken after the termination of the Project

(1) Second phase of the Project

Once it is confirmed that the following measures to secure the financial sustainability of the Project have been taken by 15 September, 2006, the Project will proceed to the second phase:

- All the salaries and travel allowances of C/P
- 50% of the salaries of supporting staff
- All of the salaries of the drivers of the four vehicles assigned in Belete and Gera
- Expenses for electricity, water and gas of the Jimma Participatory Forest Management

Training Center and Participatory Forest Extension Centers in Belete and Gera

In the second phase of the Project, the following costs must be paid by the Ethiopian side at the end of the first year in addition to the costs mentioned above:

- 25% of the fuel expenses (two trucks and two hard-top wagons) used for project activities conducted in Belete and Gera
- 10% of the fuel expenses used by C/P at the Zonal level.

Continuation of the second phase is contingent on the fulfillment of these conditions, which will be confirmed by the Project Consultation Team to be dispatched to Ethiopia at the end of the first year of the Project.

Tentative idea of the second phase project is as follows:

Project title: Participatory Forest Management Project in Belete-Gera Regional Forest Priority Area Phase II

Project purpose: Participatory forest management is put in place in selected areas in Belete-Gera RFPA.

Target group: Communities in the selected areas

Target Area: Areas to be selected in Belete-Gera RFPA

Duration of Project Period: Four years (first stage: one year, second stage: three years)

Major activities/outcomes to be achieved:

First stage:

- (a) Establish a guideline of WaBuB PFM, including the roles and functions of the Region, Zone and Districts, based on a re-examination of the P-FMA process and discussions among stakeholders.
- (b) Conduct a survey and establish an extension strategy of WaBuB PFM in Belete-Gera RFPA.
- (c) Organize a seminar for introducing PFM to technical experts, development agents and community leaders of other villages in Belete-Gera RFPA.
- (d) Follow-up the formalization of FMAs and strengthen the organizational capacity of WaBuBs in the target sub-villages in the Project.
- (e) Carry out a training course on GPS survey methodologies for technical experts/development agents in Shabe Sombo and Gera Districts.
- (f) Review "The Forest Resources Management Study in the Southwestern Part of Ethiopia" produced by JICA in 1998 and prepare a conceptual plan for forest resource management (productive use of forest resources).

Second stage:

- (a) Select target areas.
- (b) Conduct a baseline survey in the selected areas.
- (c) Expand WaBuB PFM in the Belete-Gera RFPA.
- (d) Conduct a supplemental inventory survey, and plan and conduct forest resource management in specific areas with the participation of local people.
- (e) Establish a guideline of PFM in Oromia RFPA.
- (f) Develop capacity of C/P in ARDOs and OARDB.
- (g) Develop capacity of local people on forest resource management.

(2) Initiatives and inputs required to the Oromia Regional Government

The Oromia Regional Government's initiatives in supporting the Project, e.g. authorization of FMAs, approval of the guideline, and securing of the counterpart personnel, are indispensable for the smooth implementation of the second phase of the Project.

8. Lessons learnt

(1) Improvement of project management:

- (a) Deadlines of activities/outputs should be specified in indicators in PDM.
 - (b) Project should be periodically monitored based on PDM.
 - (c) PDM and PO, including indicators, should be revised, whenever necessity arises, in accordance with the progress of the project.
 - (d) A proper mechanism and environment should be created in which counterpart can be involved in decision-making and management of the project. Among others, TOR of short-term experts should be thoroughly discussed among Japanese experts and counterpart.
 - (e) Japanese experts' reports should be produced in English and distributed to counterpart so that the information can be shared by all the project staff.
- (2) Study on similar projects should be conducted at the early stage of the project in order to raise awareness of counterpart and other stakeholders.
- (3) Since PFM should be implemented hand-in-hand with the livelihood support activities, the latter should be conducted, in principle, at the same level as that for forest management, although it depends on local circumstances.
- (4) Advice by Project Consultation Team should be properly followed up.

Schedule of the Joint Evaluation

Date	Mr. Katsuta, Dr. Shibata, Mr. Yoshikura	Mr. Mori
6/4 (Sun)		Departure Tokyo
6/5 (Mon)		Arrive in Addis Ababa Discussion with JICA Ethiopia Office Courtesy call to Oromia government Interview with Deputy / Project Director
6/6 (Tue)		Addis Ababa to Jimma Courtesy call to Jimma Zone Interview with Project Manager
6/7 (Wed)		Discussion with Japanese experts Jimma to Gera
6/8 (Thu)		Visit to Participatory Forest Extension Center Interview with Afalo WaBuB Visit to Afalo sub-village Interview with C/P of Gera ARDO Gera to Jimma
6/9 (Fri)		Jimma to Belete / Shabe Visit to Participatory Forest Extension Center Visit to Shabe Sombo ARDO Interview with Chaffe WaBuB Interview with C/P of Shabe Sombo ARDO Belete / Shabe to Jimma Interview with C/P of Seka ARDO at Jimma PFM training center
6/10 (Sat)		Interview with C/P of Gera ARDO at Jimma PFM training center Discussion with Japanese experts
6/11 (Sun)	Departure Tokyo	Preparation of report
6/12 (Mon)	Arrive in Addis Ababa Discussion with JICA Ethiopia Courtesy call to Oromia government	Discussion on the evaluation grid
6/13 (Tue)	Interview with Japanese experts	Discussion on the evaluation grid
6/14 (Wed)	Addis Ababa to Jimma Jimma to Gera Site observation & Feedback of Interviews to Afalo WaBuB	
6/15 (Thu)	Jimma to Shabe Site observation & Feedback of interview to Chaffe WaBuB	
6/16 (Fri)	Discussion on evaluation grid	
6/17 (Sat)	Discussion on evaluation report Jimma to Addis Ababa Document preparation for Evaluation Report	
6/18 (Sun)	Document Preparation for Evaluation Report	
6/19 (Mon)	Courtesy call to Oromia Regional Government Meeting for Preparation confirmation of Evaluation Report	
6/20 (Tue)	Meeting for Preparation confirmation of Evaluation Report	
6/21 (Wed)	Joint Coordination Committee Signing on Minutes of Meeting	

- Together with Japan team, Mr. Nugusu and Mr. Tibebe joined in the field study from 6 to 17 June.

List of the Persons Consulted

< Oromia Regional Government >

Diribu Jernal Project Director
Aseefa Ejo Acting Deputy Project Director

< Jimma Zone >

Mohammed Seid Project Manager

< Gera District >

Shafi Husen Administrator, Gera District
Fikadu Zewude Former ARDO head
Lishan Demissie Leader, Natural Resource and Rural Energy Team, ARDO
Damtew Asfaw Forest Expert, Natural Resource and Rural Energy Team,
ARDO
Wageye Tesfaye Forest Expert, Natural Resource and Rural Energy Team,
ARDO

< Seka Chokorsa District >

Abebe Ayana Leader, Planning Unit, ARDO
Daniel Kebele Land Use and Administration Team Leader, ARDO
Aboneh Robele Leader, Natural Resource and Rural Energy Team, ARDO

< Shabe Sombo District >

Mubarak A/Oli Head, ARDO
Fikru Bulita Head, Belete Forest, ARDO
Fikru Addisu Development Agent

< Afalo WaBuB >

Executive Committee (2)
Patrolling Committee (3)

< Chaffee WaBuB >

Executive Committee (5)
Patrolling Committee (2)

< JICA Ethiopia Office >

Naoki Saito	Resident Representative
Minoru Homma	Assistant Representative

< Japanese Experts >

Shinichiro Hisada	Chief Adviser / Information Management
Eiji Sugita	Participatory Forest Management / Project Coordinator
Tsutomu Nishimura	Community Development
Yoshiaki Kakizaki	Rural Development (short-term)

Project Design Matrix

Project Name : Participatory Forest Management Project in Belete-Gera Regional Forest Priority Areas in the Federal Democratic Republic of Ethiopia

Target Group : Communities in the project target areas

Period : 3 Years from October 1, 2003
Implementing Organization : Oromia Agriculture and Rural Development Bureau (OARDB)

Target Area : Belete-Gera Regional Forest Priority Area

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important
<p>Overall Goal Forest management is sustainably carried out by the local people in and around the Belete-Gera Regional Forest Priority Area (RFFA).</p> <p>Project purpose Participatory forest management is sustainably put in place in target villages (Ganda) in Belete-Gera RFFA.</p>	<p>1) The participatory forest management approach elaborated during the project period is applied in the other areas more than 50 % of Belete-Gera RFFA by 2011.</p> <p>2) The tree covers as of 2006 (at the point of the project phase-out) are maintained in the project target areas at the point of Year 2011.</p> <p>3) Local people in the project target villages (Ganda) stay enjoying the benefits of natural resources from the forest managed by them at the point of Year 2011.</p> <p>1) More than 70% of the target communities supported by the project sustainably carry out forest management activities.</p> <p>2) More than 70 % of the local people supported by the Project stop the deforestation (estimated through annual participatory monitoring) after participating in the Project.</p> <p>3) Contracts for forest management are signed between the target villages and the Oromia Regional Government by September 2006.</p>	<p>1) Follow-up study</p> <p>2) Satellite data</p> <p>3) Interviews to the key stakeholders</p> <p>1) Project reports (Activity reports, Monitoring and Evaluation data)</p> <p>2) Field survey to the local people</p> <p>3) The contracts</p>	<p>-The Oromia Regional Government does not change the policy of further expansion of participatory forest management in Belete-Gera RFFA.</p>
<p>Outputs</p> <p>(1) Target villages (Ganda) are selected based on a participatory manner such as workshops and inquiries.</p> <p>(2) Capacity of technical experts and development agents over forest management, participatory planning, monitoring and evaluation is strengthened.</p> <p>(3) Boundaries regarding forest management and land use in the target villages (Ganda) are agreed upon by all of the major stakeholders.</p> <p>(4) Capacity of the local people in the target villages (Ganda) for natural resource management is strengthened.</p> <p>(5) Appropriate systems of participatory forest management in the Belete-Gera RFFA are clarified.</p> <p>(6) Information and lessons learned on participatory forest management are shared among the stakeholders.</p>	<p>(1)-1 The report on the Baseline survey is produced in Oromiffa and English.</p> <p>(1)-2 Local People in the target villages (Ganda) concur with the implementation of activities towards participatory forest management.</p> <p>(2)-1 Training needs of the technical experts and development agents are grasped.</p> <p>(2)-2 Training plans are elaborated by April 2004.</p> <p>(2)-3 Training plans, curriculums and materials are revised according to the recommendations based on the evaluation of the trainings.</p> <p>(3)-1 Local stakeholders in and around the target villages (Ganda) agree with the boundaries regarding forest management and land use through participatory three-dimensional modeling.</p> <p>(3)-2 Geographic information such as land use and vegetation maps is prepared.</p> <p>(3)-3 The boundaries in regard of forest management and land use are authorized by Oromia Regional Government.</p> <p>(4)-1 More than 80% of the members of local forest management groups regularly have at least a meeting every month for decision-making and information sharing.</p> <p>(4)-2 No less than 30% of the membership of local forest management groups in total is composed of women.</p> <p>(4)-3 A provisional forest management plan is formulated in each target villages (Ganda).</p> <p>(4)-4 A monitoring on the status of the implementation of the provisional forest management plan is carried out by the local people.</p> <p>(4)-5 The provisional forest management plan is revised by the local people based on the recommendations made through the monitoring.</p> <p>(5) Appropriate systems of participatory forest management in the Belete-Gera RFFA are elaborated.</p> <p>(6)-1 Geographic information is disseminated to the concerned organizations/institutions.</p> <p>(6)-2 Regular information sharing is made through networks such as Participatory Forest Management Working Group.</p> <p>(6)-3 An open seminar is held inviting other donors, NGOs and the Federal Government.</p> <p>(6)-4 Representatives from more than 50% of the total villages (Ganda) in Belete-Gera RFFA take part in the seminar which introduces the activities of the Project.</p> <p>(6)-5 Four newsletters (in Oromiffa and English) are published.</p>	<p>(1)-1 The report on the participatory rural appraisal</p> <p>(1)-2 The report of the participatory workshop</p> <p>(2)-1 The report on the training needs analysis</p> <p>(2)-2 The training plans</p> <p>(2)-3 Revised training plans, curriculums and materials</p> <p>(3)-1 The report of the participatory workshop</p> <p>(3)-2 Land use and vegetation maps</p> <p>(3)-3 Official documents of Oromia Regional Government (in Oromiffa and English)</p> <p>(4)-1 The report on the activities of C/P</p> <p>(4)-2 Membership lists of the groups, The report on the activities of C/P</p> <p>(4)-3 Provisional forest management plans</p> <p>(4)-4 The monitoring report, a project report on the participatory monitoring</p> <p>(4)-5 Forest management plan</p> <p>(5) Plan of appropriate systems of Participatory forest management</p> <p>(6)-1 The report on the networking activities</p> <p>(6)-2 The report of the open seminar (in English)</p> <p>(6)-3 The report of the seminar for the representatives.</p> <p>(6)-4 Newsletters (in Oromiffa and English)</p> <p>(6)-5 Newsletter distribution record</p>	<p>-There is no severe drought, forest fire or forest pest.</p>

<p>Activities of the Project</p> <p>(1)-1 To conduct a baseline survey with participatory methods. (1)-2 To carry out an analysis on the stakeholders in the area. (1)-3 To organize a workshop for consensus building towards participatory forest management and rural development activities in candidate target villages (Ganda). (2)-1 To carry out a task analysis of the technical experts and development agents and have an appraisal on their training needs. (2)-2 To formulate training plans on each technical field through discussion with the trainees and their supervisors. (2)-3 To present a training course/seminar relating to forest management to the technical experts and development agents. (2)-4 To present a training course/seminar on participatory planning, monitoring and evaluation to the technical experts and development agents. (2)-5 To hold a seminar for introducing participatory forest management to technical experts and development agents in other villages (Ganda) in Belete-Gera RFFA. (2)-6 To present a training course on GIS and remote sensing to the technical experts of Oromia Regional Government. (2)-7 To present a training course on GPS survey methodologies to technical experts/development agents in Seka Chokorsa District and Gera District. (2)-8 To revise the plans, curriculums and materials of the trainings based on the recommendations made in a participatory evaluation of the training. (3)-1 To organize a participatory three-dimensional modeling workshop inviting relevant stakeholders. (3)-2 To scan the information regarding the land use and boundaries demonstrated on the three-dimensional model into the GIS system. (3)-3 To examine over the boundaries regarding forest management and land use for authorization. (4)-1 To carry out rural development activities determined through the baseline survey. (4)-2 To provisionally set environmental standards and social codes over the forest use and management through discussion between the local community and concerned authorities. (4)-3 To assist the formulation of a provisional forest management plan by the community. (4)-4 To assist small-scale experiments/learning activities in the forest carried out by the local community. (4)-5 To assist the monitoring over the implementation of the provisional forest management plan carried out by the local community. (5)-1 To assist the elaboration of systems of participatory forest management by the local communities and concerned authorities based on the recommendations made through the monitoring. (6)-1 To prepare materials regarding geographic information for facilitating the mutual understanding among the stakeholders. (6)-2 To share information and lessons learned over participatory forest management with other donors, NGOs, and the Federal Government through networks such as Participatory Forest Management Working Group (PFM-WG). (6)-3 To hold an open seminar inviting other donors, NGOs and the Federal government. (6)-4 To organize a seminar for introducing project activities inviting community leaders from other villages (Ganda) in Belete-Gera RFFA. (6)-5 To publish newsletters (in Oromiffa and in English) in order to facilitate information sharing on participatory forest management among local people.</p>	<p>Inputs</p> <p>(1) Inputs from Ethiopian side [Project personnel including counterpart personnel] 1) Project director: Deputy Head, Rural Land & Natural Resource Administration Authority (RLNRAA), Oromia Regional Government 2) Deputy project director: Head, Forestry and Wildlife Department, RLNRAA, Oromia Regional Government 3) Project manager: Rural Land & Natural Resources Administration Expert, Rural & Agriculture Development Coordination Desk of Jimma Zone, Oromia Regional Government 4) Experts, ORLNRAA at regional level 5) Experts, Bureau of Agriculture at district level 6) Heads, ORLNRAA office at district level from Seka Chokorsa and Gera District 7) Counterpart and administrative personnel from Seka Chokorsa and Gera Districts - Technical experts, Rural Land & Natural Resource Administration Office - Forest guards, Rural Land & Natural Resource Administration Office - Agriculture experts, Agriculture Development Office at district level - Development agents (DAs)</p> <p>[Trainees] 1) Technical staff 2) Development agents</p> <p>[Land] 1) Compound of Rural and Agriculture Development Coordination Desk, Jimma Zone 2) Compound of Rural and Agriculture Development Coordination Office Seka Chokorsa and Gera Districts [Facilities] 1) Project coordination office in the Rural Development & Agriculture Coordination Desk compound, Jimma Zone 2) Project field offices in the Rural Development & Agriculture Coordination Desk compound, Seka Chokorsa and Gera Districts</p> <p>[Administrative and Operational Cost] 1) Salaries and related allowances for Ethiopian staff/personnel 2) Expenses for electricity, water, gas and other fuel 3) Regular expenses incurred by the machineries, equipments and other supplies provided by JICA, including customs clearance costs, storage costs, inland transportation costs, installation costs and other related costs 4) Any costs for maintaining facilities and machineries, equipment and other supplies</p> <p>(2) Inputs from Japanese side [Long term experts] 1) Chief advisor/ information management 2) Participatory forest management / coordinator 3) Community development</p> <p>[Short term experts] Short-term experts will be dispatched upon necessity [Counterpart training in Japan] Training opportunities in Japan and/or the third countries for one to two counterparts will be provided annually [Machinery, Equipment and Materials] 1) Equipment for forest management 2) Equipment for community development management 3) Equipment for training 4) Vehicles 5) Other necessary equipment for the implementation of the Project [Infrastructure] 1) Forest Management Training Center in the Rural & Agriculture Development Coordination Desk compound, Jimma Zone 2) Participatory Forest Management Training Center in each compound of the Rural & Agriculture Development Coordination Office at Seka Chokorsa and Gera Districts</p>	<p>-There is no significant turn over of the technical experts and development agents trained through the Project.</p>	<p>Preconditions</p> <p>-There is no significant change on the policy that 1) no eviction of the peasantry out of a RFFA is executed without a consultation, consent and the assurance of the benefits of the peasantry, and 2) the region should facilitate conditions that ensure the well-being of the inhabitants in such a way that they would be beneficiaries from the development as regards regional forest, specified in "Proclamation No.94/1994: A Proclamation to Provide for the Conservation, Development and Utilization of Forests".</p> <p>-There is no significant change over the general federal policy of decentralization which facilitates the devolution regarding forest management from the Federal Government to regional governments and districts.</p>
---	---	--	---

Evaluation Grid with Findings

Project Achievements and Implementation Process

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks
A. Achievement of Overall Goal				
A-1. Forest management is sustainably carried out by the local people in and around the Belete-Gera Regional Forest Priority Area (RFPA).	(1) The number of Forest Management Agreements (FMA) in Belete-Gera RFPA. (2) Forest cover in the target villages. (3) Natural resource management in the target villages	<ul style="list-style-type: none"> • ARDOs 	(1) Monitoring Reports on FMA (2) Satellite data (3) Interviews	(+ positive factor: - negative factor; *neutral factor) * Although no FMA has yet materialized in any villages other than target villages, it is expected that P-FMAs/FMAs will be extended to other villages in Belete-Gera RFPA since: + Residents of three Shanes (Caro, Arere, Ambalta) that constitute Meti Jiga together with Chaffee are interested in forming WaBuBs and 82 out of 94 households have already officially expressed their interest. + The interview survey conducted on the occasion of the terminal evaluation showed the willingness of residents in adjacent villages to form P-FMAs.
B. Achievement of Project Purpose				
B-1. Participatory forest management is sustainably put in place in target villages (Ganda) in Belete-Gera RFPA.	(1) Participation rate of the local people in the target villages (2) Quantitative data on the maintenance of RFPA collected through monitoring of P-FMA in WaBuBs (Afalo and Chaffee). <ul style="list-style-type: none"> • FMAs signed between ARDOs and WaBuBs Afaro and Chaffee. 	<ul style="list-style-type: none"> • ARDOs 	(1) Participation rate (2) Monitoring Reports on P-FMAs (3) FMAs	+ 43 residents and 197 non-residents (97% of total) of Afalo and 46 residents and 8 non-residents (100% of total) in Chaffee signed the P-FMAs. + 172 members, 87 non-residents, 146 members participated in 2nd, 3rd, and 4th General Assembly respectively in Afalo. + WaBuBs have been organized and P-FMAs have been signed in two target sub-villages – Afalo (Gera) and Chaffee (Belete) + As a result of the three monitoring sessions of joint monitoring of P-FMA, no violation by WaBuB members has been observed in the two target sub-villages, confirming that the system is attaining its objective. - However, some deforestation and improper use of forest by residents of neighboring villages at the border of Chaffee sub-village have been detected: 1 tree was girdled; 12 trees were girdled and debarked; 1 tree debarked; 13 trees were cut down and split for the use of house construction; around 0.125 ha of forest land was burned and the undergrowth slashed to make ready for coffee planting; and 2 persons were detected in an attempt to expand coffee land on forest land. * In Afalo, the executive committee recommends that P-FMA be extended for another one year in order to familiarize seasonal users with the P-FMA. + In Chaffee, WaBuB members decided in General Assembly that they would proceed to a formal FMA with some modifications.

C. Achievement of Project Output

<p>C-1. Target villages (Ganda) are selected based on a participatory manner such as workshops and inquiries.</p>	<p>(1) Baseline survey reports (2) Selection process of the target villages – local people's agreement</p>	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Members of WaBuBs • Experts 	<p>(1) Reports on baseline survey, stakeholder analysis, workshops (2) Report of participatory workshops</p>	<p>+ As a result of the baseline survey and discussions with stakeholders, sub-villages – Afalo and Chaffee– were selected as the target of the Project. * The selection of the target villages took more time than initially planned since consensus between stakeholders could not be easily achieved. * Although it would be ideal to form FMAs with a social unit that has a wider scope of area coverage, it was agreed that P-FMA be formed at the smallest unit of sub-village - Shane, considering the limited implementing capacity of the Project. Among the Shanes in Sabaka Dabaye, Chaffee was selected considering the forest type and the progress of deforestation. In Gura Afalo, Afalo was selected due to its relatively good accessibility. * Although a workshop was planned to be held to attain consensus among stakeholders on the action plan for participatory forest management and livelihood support activities, the workshop was not held since it was decided that the results of the baseline survey, instead of the workshop, be used as a basis of the action plan, taking into consideration the limited time available.</p>
<p>C-2. Capacity of technical experts and development agents over forest management, particularly planning, monitoring and evaluation is strengthened.</p>	<p>(1) Identification of training needs (2) Training plans (3) Evaluation of training and the revision of training materials • Degree of improvement of knowledge (technical and management) and skill level of C/P. Evaluation methods of the effectiveness of the training. • Demarcation of assignments among OARDB and ARDO staff • Change in forest guards' roles</p>	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<p>(1) Training needs analysis report (2) Training plans (3) Revised training plans • Evaluation reports of training • Interviews</p>	<p>* The list of training provided to C/P is shown in Annex 6. - Although general training needs for participatory forest management were identified by Japanese experts, ready-made training programs, not specific to this project, were mostly used due to time constraints of Japanese experts. + A one day workshop was organized to present the results of training programs, where experience of knowledge gained in the training was shared among participants of the workshop. Recommendations to the future training were discussed in the workshop. + Technical and management skills of counterpart were improved through training programs. + Through day-to-day management of the Project and a series of workshops, C/P's knowledge and understanding on participatory forest management have been significantly improved. * Since most officials of the newly established Shabe Sombo district have not been engaged in the Project, their capacity should be strengthened through training.</p>
<p>C-3. Boundaries regarding forest management and land use in the target villages (Ganda) are agreed upon by all of the major</p>	<p>(1) Agreement process of boundaries for forest management and land use (2) Geographic information (land</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ARDOs • Members of WaBuBs • Experts 	<p>(1) Report on participatory workshops (2) Land use and</p>	<p>* Although the Project invited the chairmen of three adjacent villages when determining the boundaries for P-FMA, only two villages sent their representatives. Moreover, boundaries are not clearly recognized by stakeholders and are difficult to be agreed</p>

<p>stakeholders.</p>	<p>use and vegetation maps) (How did Participatory 3-D Model contribute to the determination of boundaries and to local people's consensus? How was the research results of bio-diversity used? Why P3DM was not used in Chaffee?) (3) Authorization of boundaries by Oromia Regional Government</p> <ul style="list-style-type: none"> The reason of delay in the authorization of boundaries by Oromia Regional Gov. 		<p>vegetation maps (Results of P3DM workshops?)</p> <ul style="list-style-type: none"> Official documents on the determination of boundaries 	<p>upon. Therefore, the Project made a decision to postpone agreement on boundaries with adjacent villages and move forward the P-FMA. However, even if the boundary issue is not settled, it is expected that once residents of adjacent villages sign a FMA, deforestation is practically contained and thus, the project purpose will be achieved.</p> <ul style="list-style-type: none"> Participatory 3D Model was helpful in promoting WaBuB members' acknowledgement of the land use and achieving consensus on provisional boundaries among themselves in Afalo Village. The GPS survey was used to determine part of outer-boundaries, while locations of homestead / farmland were identified through extracted satellite image in Afalo Village. The provisional boundaries for Chaffee Village were drawn on a map through the GPS survey. Afterwards, P3DM is being established in Chaffee to be used for monitoring and evaluation of P-FMA toward formalization of FMA. P-FMA states that boundaries of the P-FMA area and those of settlement/farmland area are surveyed and registered. However, it did not materialize, and it was decided that this issue be re-examined upon formalization of FMA. The P-FMAs including a map showing provisional boundaries were authorized by the Oromia Regional Government.
<p>C-4. Capacity of the local people in the target villages (Ganda) for natural resource management is strengthened.</p>	<p>(1) Frequency and participants of WaBuB meetings (2) Women's ratio in WaBuB membership (3) Provisional forest management plans – subsidiary bylaws (4) Monitoring of P-FMA (5) Revised P-FMA</p> <ul style="list-style-type: none"> Progress /results of livelihood support activities and forest management Process of consensus building on action plans. Effectiveness of livelihood support activities for the achievement of the project purpose. Agreement process of environmental standards and social codes 	<ul style="list-style-type: none"> ARDOs Members of WaBuBs Experts 	<p>(1) Activity report (2) Member list of WaBuB (3) Subsidiary bylaws (4) Monitoring reports (5) Revised P-FMA</p>	<ul style="list-style-type: none"> + 43 residents and 197 non-residents (97% of total) of Afalo and 46 the P-FMAs. + 172 members, 87 non-residents, 146 members participated in 2nd, 3rd, and 4th General Assembly respectively in Afalo. + A majority of members participated in six sessions of General Assembly in Belete. + Executive Committee in each village was held every month. + Ratios of women membership are 7/54 in Chaffee WaBuB, in 15/240 in Afalo. + Women's ratios in Executive Committee are 2/7 in Chaffee WaBuB, 2/9 in Afalo WaBuB. + The subsidiary by-law of Afalo states restricted grazing, assignment of patrolling team, watching intruders, right of fuel wood collection, approval of Executive Committee to cut a tree, coffee shade regulation and procedures for approval of tree cutting. + Chaffee WaBuB's subsidiary by-law states encouragement of individual homestead plantation, soil conservation measures, inspection of activities that hamper tree growth, keeping

	<ul style="list-style-type: none"> Countermeasures against illegal activities in Chaffee 		<p>inspection data, and compiling reports.</p> <ul style="list-style-type: none"> Items to be monitored include improper practice such as tree cut, tree girdling, debarking, trunk burning, subletting homestead, expansion/change of homestead, size of farmland, newly established homestead, and (in Afalo) supervision of seasonal forest users. After three sessions of joint monitoring of P-FMA, modifications of the current P-FMAs are being suggested by WaBuB members, which are expected to be reflected into provisional/formal FMAs. Improved beehives, the use of which is highly dependent on the forest, have contributed to the enhancement of the awareness of the local people toward forest conservation Livelihood support activities, even if some of them are not directly related to the reduction of the deforestation, contribute to the decrease in the pressure to the forest. They were also helpful to attract local people's attention since the Project showed them its willingness to listen to their needs. Livelihood support activities were planned and conducted at Ganda level based on the ideas in the project document. However, since P-FMA should be implemented hand-in-hand with the livelihood support activities, the latter should be conducted, in principle, at the same level as that for forest management - Shane/Jiga level, although it depends on local circumstances. On the other hand, it is expected that P-FMAs will eventually be extended to those non-target sub-villages to which livelihood support was provided and that the provided grain mill and improved beehives will contribute to the decrease in pressure to the forests. Representatives of target villages, district/Zone administrators, and ARDO staff visited Adaba Dodola, while WaBuB Executive Committees and CP visited Bonga. These tours contributed a lot to the enhancement of awareness of the stakeholders toward participatory forest management.
<p>C-5. Appropriate systems of participatory forest management in the Belete-Gera RFFPA are clarified.</p>	<p>(1) OARDO's decision on the future application of FMA</p> <ul style="list-style-type: none"> Opinions on P-FMA by stakeholders. Status of the subsidiary by-law of P-FMA FMA's consistency with existing laws/policies 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Members of WaBuBs Experts 	<p>(1) OARDO's decision</p> <ul style="list-style-type: none"> Main principles of participatory forest management have been established / proved through the Project, although modifications of the system will be needed when applied to other areas. The PFM system being established by the Project has been proved to be appropriate in that (1) most WaBuB members show strong appreciation on the P-FMA since their right to live in and use the forest is now secured, and (2) three sessions of joint monitoring by WaBuB and ARDO confirmed that there were no serious defects in the P-FMAs. It is confirmed by the Oromia Regional Government that P-FMA

<p>C-6. Information and lessons learned on participatory forest management are shared among stakeholders.</p>	<p>(1) Dissemination of geographic information among organizations (2) Regular information sharing (3) Open seminars w/ NGO, donors and Fed Government (4) Open seminars for villagers (5) Newsletters</p>	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Members of WaBuBs • Leaders of other villagers • Experts 	<p>(1) Activity reports (2) Activity reports (3) Seminar reports (4) Attendants list (5) Newsletters</p>	<p>is consistent with the forest proclamation on Regional Forest Priority Areas.</p> <p>+ Geographic information, including land use and vegetation maps, was prepared and handed over to the Oromia Regional Government. + Project activities were broadcasted four times by the local TV, contributing to an enhancement of stakeholders' awareness. * An open seminar on the results of the Project will be held by the end of the Project period, inviting NGOs, donors, Fed Government. * It is deemed premature to hold an open seminar inviting residents in Belete-Gera RFFPA before the decision to continue the Project has not been made. When the seminar is held, the Oromia Regional Government will explain to the participants about its intension to promote FMAs in Belete-Gera RFFPA. + Newsletter was issued once to disseminate the objective and the progress of the Project.</p>
<p>D. Results of Input</p>				
<p>D-1. Inputs by the Japanese side</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Dispatch of long-term Experts • Dispatch of short-term Experts • C/P Training in Japan • Provision of machinery and equipment • Support of local cost • Building and facilities • Allocation of C/P • Local cost allocation • Provision of machinery and equipment maintenance • Others 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<p>* As shown in Annex 6 (assignment schedule of experts, C/P training, and equipment and machinery)</p>
<p>D-2. Inputs by the Ethiopian side</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Building and facilities • Allocation of C/P • Local cost allocation • Provision of machinery and equipment maintenance • Others 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<p>+ Land for project offices has been provided by the Ethiopian side in a timely manner. - Since all C/P were working both for the administration of their respective governments and for the Project, they could not allocate sufficient time for the Project, which somehow slowed down Project activities. - The number of C/P in Seka Chokorsa was not sufficient at the initial stage of the Project due to the small number of experts of the Natural Resource Team. - Since Belete Forest currently belongs to the newly established Shabe Sombi District, there is only one C/P (Development Agent) in the district who has been engaged in the Project. Another C/P has recently been assigned to the Project. + Salaries of all C/P were paid by the Ethiopian side. - Since C/P at the Regional level were loaded with other activities</p>

						of the Region, they could not allocate sufficient time to the Project.	
E. Appropriateness of Implementation Process							
E-1. Overall project management	<ul style="list-style-type: none"> • Project implementation process 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - It is perceived that Ethiopian C/P at all levels have not been sufficiently involved in the management and decision-making; more emphasis should have been put on information sharing at various levels of decision-making process. + In the beginning of the Project, Japanese experts took a lead in the operation of the Project. However, in accordance with the enhancement of awareness and attitude of the Ethiopian C/P toward participatory forest management and with the progress of the Project, Ethiopian C/P have become more and more proactively engaged in the operation of the Project. + Japanese experts and Ethiopian C/P have overcome difficulties in communication and achieved smooth communication. 			
E-2. Appropriateness of communication between Experts and C/P	<ul style="list-style-type: none"> • Communication situation 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	See E-1			
E-3 Establishment of ownership of the Project	<ul style="list-style-type: none"> • Awareness and attitude of C/P 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 				
E-4. Appropriateness of approaches/ methods of technology transfer	<ul style="list-style-type: none"> • Methodologies of technology transfer 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - Since short-term experts were tasked to complete specific assignments in a limited period of time, they were not always able to transfer their technologies as C/P expected. The Terms of Reference for short-term experts should have been discussed and agreed upon between the Ethiopian side and the Japanese side. - Some of the long-term and short-term experts did not submit a report in English at the end of their assignment, which has made follow-up activities difficult. + Introduction of the Participatory 3D Model was appropriate in increasing C/P's understanding of the local communities and promoting WaBuB members' acknowledgement of the topography in Chaffee and Afalo Villages. * Some of the C/P at Districts and Zone have received introductory training on the use of GIS technology; the technology can be used for demarcation and land identification. However, in order to utilize the technology, GPS training was needed. It did not materialize, since time for GPS training was not allocated. - Continuation of training on GIS is necessary in order to utilize the equipment and technology provided. + C/P's technical capacity to maintain P-FMA/FMA in the target sub-villages is being built through On-the-Job training. 			

Five Evaluation Criteria: Relevance

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks (+ positive factor; - negative factor; *neutral factor)
1. Relevance				
1-1. Relevance to the government policies	<ul style="list-style-type: none"> National Government policies Forest Proclamation of Oromia 2003 Other related forestry policies Consistency of FMA with existing laws 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> The Forest Proclamation No. 72/2003 of the Oromia Region stipulates: "Development and Protection of the State Forest in Oromia Region: concerning the protection, development and management of the State Forest in Oromia Region, the Authority shall strengthen community participation on forest development and protection". It is confirmed by the Oromia Regional Government that participatory forest management is consistent with the forest proclamation on the Priority Regional Forest Areas.
1-2. Relevance to local people's needs	<ul style="list-style-type: none"> General status of deforestation of Belete-Gera RFFA Local people's views on WaBuB approach. Willingness of local people to form new FMAs. 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts Local people around Belete-Gera RFFA 	<ul style="list-style-type: none"> Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> According to the interview survey to local people conducted on the occasion of the terminal evaluation, all of the interviewees are highly content with the P-FMAs since the agreements secure local people their right to live in and use the forest. The survey also shows the willingness of residents in adjacent villages to form P-FMAs. Moreover, most of the villagers in the three sub-villages that constitute Meji Jiga together with Chaffee have already agreed to form P-FMAs. According to the three sessions of monitoring jointly conducted by WaBuB members and ARDOs, no significant violation has been detected, confirming that the forests are protected from deforestation.
1-3. Technological advantage of Japan's assistance	<ul style="list-style-type: none"> C/P's views on Japan's expertise in participatory forestry management Similar activities by other donors 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts 	<ul style="list-style-type: none"> Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> C/P find Japanese experts' skills and techniques sufficiently high.
1-4 Consistency of Japan's aid policy to Ethiopia	<ul style="list-style-type: none"> Focal fields in Japan's aid policy/programs to Ethiopia 	<ul style="list-style-type: none"> JICA Ethiopia Office 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials 	<ul style="list-style-type: none"> Natural resource management programs with the participation of local residents are one of the focal areas in JICA's cooperation policy to Ethiopia.
1-5 Appropriateness of the project approach	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> The Oromia Regional Government considers that natural forests in Oromia Region should be conserved through the participation of local residents. The achievements of this Project have strengthened this conviction.

Five Evaluation Criteria: Effectiveness

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks
2. Effectiveness				
2-1. Achievement of Project Purpose	As described in B-1	As described in B-1	As described in B-1	As described in B-1
2-2. Contributing or Negative factors for the achievement of Project Purpose	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB and ARDO's commitment in managing the project. • Capacity building of C/P • Willingness of local people to sign on FMAs. • Development of a legal/institutional framework for participatory management - consistency of FMA with existing laws • Financial resources • Communication between Experts and C/P 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	The effectiveness of the Project is modest. Although Project Purpose is mostly achieved, establishment of the participatory forest management system and formalization of the forest management agreements need to be completed to fully attain the Project Purpose (Output 5). Other Output 1, 2, 3, 4 have contributed to the attainment of the Project Purpose. Output 6 will contribute to the attainment of the Overall Goal.

Five Evaluation Criteria: Efficiency

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks
3. Efficiency				
3-1. Achievement of Project Output	As described in C-1 to C-6.	As described in C-1 to C-6.	As described in C-1 to C-6.	As described in C-1 to C-6.
3-2. Appropriateness of quality, quantity and timing of inputs				
3-2-1. Long-term Experts	<ul style="list-style-type: none"> • Number • Expertise • Timing of dispatch • Duration of assignment 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> + Number, timing and duration of long-term experts were mostly appropriate. - The workload of the Coordinator was too heavy; several assistant staff should have been employed from the beginning of the Project so that Japanese experts could have concentrated more on substantial matters. As a result, technology transfer to C/P on natural forest management has not sufficiently materialized.
3-2-2. Short-term Experts	<ul style="list-style-type: none"> • Number • Expertise • Timing of dispatch 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - A one-day workshop was organized to share the findings of the short-term expert in wildlife assessment. However, his English report has not been delivered to C/P; the Project has difficulties in

	<ul style="list-style-type: none"> Duration of assignment 			<p>conducting follow-up work.</p> <p>The Terms of Reference and Work Plan for short-term experts should have been thoroughly discussed and agreed upon between the Ethiopian side and the Japanese side.</p>
3-2-3. Training	<ul style="list-style-type: none"> Number of trainees Contents of training Duration of training Timing of training Feedback 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> Training in Japan and third countries was useful in upgrading C/P's technical capacity and enhancing their awareness toward PFM. C/P wished to have an academic degree at Wondo Genet Forestry College, Jimma University or in foreign countries in order to upgrade their skills of participatory forest management. However, it was not accepted since it was not included in the Project activities.
3-2-4. Equipment and Materials	<ul style="list-style-type: none"> Items Amount 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> WaBuB executives in Afalo are concerned about the communication problem since they do not even have a vehicle or a radio to send messages in case of forest fire occurrence. Although most motorbikes have not been used during the Project period since only a few C/P had a driver's license, it is expected that they will obtain a license shortly and use the motorbikes for the continuation of Project activities. Some of the C/P have not learned how to use GPS provided. Personal computers have greatly contributed to the efficiency in conducting Project activities. However, computer skills of some of the C/P have not been sufficiently developed to make use of the computers. No complete property register system has been established to properly control the equipment being used in the Project.
3-2-5. Infrastructure	<ul style="list-style-type: none"> Items Function 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> The Belete Participatory Forest Extension Center was constructed not close to the District Government Office but at the border of the Forest under the expectation that C/P would be transferred from their office. However, since all C/P were requested to conduct duties at the District Government Office at the same time with the Project activities, the Center was not used effectively. On the other hand, the above-mentioned Center is located close to the newly established Shabe Sombi District, it is expected that the office will be used effectively by the district.
3-2-6. Local Activity Budget	<ul style="list-style-type: none"> Purposes Timing Amount 	<ul style="list-style-type: none"> OARDB ARDOs Experts 	<ul style="list-style-type: none"> Review of materials Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> Local costs such as fuel costs for transport and C/P's travel allowance have been paid by the Japanese side in order to facilitate the implementation of the Project.

3-2-7. C/P allocation	<ul style="list-style-type: none"> • Number • Ability 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<p>- It is wished by C/P that top-ups be provided to them, as is the case of other donor projects, in order to provide sufficient incentives to the C/P who are obliged to carry out dual duties - Project activities and day-to-day administrative work of districts.</p> <p>- Since all C/P were working both for the administration of their respective governments and for the Project, they could not allocate sufficient time for the Project, which somehow slowed down Project activities.</p> <p>- The number of C/P in Seka Chokorsa was not sufficient at the initial stage of the Project due to the small number of experts of the Natural Resource Team.</p> <p>- Since Belete Forest currently belongs to the newly established Shabe Sombi District, there is only one C/P (Development Agent) in the district who has been engaged in the Project. Another C/P has recently been assigned to the Project.</p> <p>+ Land for project offices has been provided by the Ethiopian side in a timely manner.</p>
3-2-8. Land and facilities	<ul style="list-style-type: none"> • Size • Timing • Convenience • Current condition • Amount • Timing 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<p>+ Salaries of all C/P were paid by the Ethiopian side.</p>
3-2-9. Local cost		<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	
3-3. Contribution to the efficiency of the Joint Coordinating Committee (JCC)	<ul style="list-style-type: none"> • Activities • Members of the Committee • Topics Discussed and advice given • Follow-ups taken 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<p>+ JCC was held two times during the Project period.</p> <p>+ First JCC was held in January 2005 to discuss the general orientation of the Project and the plan of operation, which greatly contributed to the acceleration of the Project activities.</p> <p>+ Second JCC was held in August 2005 to discuss and achieve consensus on P-FMA.</p>
3-4. Cooperation with other organizations	<ul style="list-style-type: none"> • Cooperation activities with other projects and donors 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	<p>+ Study tours to GTZ and Farm Africa projects were conducted, which significantly contributed to the acceleration of the FMA process.</p>

Five Evaluation Criteria: Impact

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks (+ positive factor; - negative factor; *neutral factor)
4. Impact				As described in A-1
4-1. Achievement of Overall Goal	As described in A-1	As described in A-1	As described in A-1	
4-2. Economic and financial impact	<ul style="list-style-type: none"> • Income increase of local people 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • WaBuB members • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	<p>+ According to the interviews conducted by the Project, the grain mill in Afalo repaired through the livelihood support program is contributing to the increase of income and decrease of expenditure of local people.</p> <p>* The grain mill in Chaffee is yet under installment.</p> <p>* Due to a delay in the distribution of improved beehives, its economic impact has not yet materialized.</p> <p>+ WaBuB members emphasize that the P-FMA has changed/improved their way to utilize the forest and that there is no negative impact caused by the agreement.</p> <p>+ According to the interviews to local people, the road rehabilitated between Chira Village and Naso River (25km) is contributing to an increase of income of residents in and around Afalo by improving their accessibility to the market.</p>
4-3. Social impact	<ul style="list-style-type: none"> • Equity between WaBuB members and non-members • Justification of boundaries - existence of intruders into WaBuB area • Willingness of WaBuB non-members to sign on FMA • Change in awareness toward forest conservation among local people 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Members and non-member s of WaBuBs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Interviews 	<p>+ WaBuB members are unanimously expressing their appreciation on the P-FMA since their right to live in and use the forest is now secured.</p> <p>+ Many residents in adjacent villages are expressing their interest to sign P-FMA, showing the significance of the impact of FMA.</p> <p>+ The attitude of WaBuB members toward forest conservation has been enhanced since they have become more and more conscious that their life is dependent on the forest.</p> <p>+ Collective efforts by the residents in Meti Jiga on the occasion of the installment of the grain mill have lead to consolidation of their capacity on collective resource management.</p>

Five Evaluation Criteria: Sustainability

Evaluation Items	Necessary Information and Data	Sources	Means of Verification	Remarks (+ positive factor; - negative factor; *neutral factor)
5. Sustainability				
5-1 Organizational aspects				
5-1-1. Operation and management system of the Project	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB and ARDO's commitment in managing the project. • Managerial / administrative capacity of the staff in Jimma Zone and ARDOs • Organizational framework /strategy for the further implementation of the project, including organizational chart. • Decision-making and monitoring system of FMAs • Management capacity of WaBuBs • Legal framework to support FMA (FMA's consistency with existing laws) 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - Since Seka Chokorsa was divided into two districts and only a limited number of C/P were transferred to the newly established district, Shabe Sombo, the capacity of the local administration to maintain the achievement of the Project is not sufficient. - Technical, managerial and administrative capacity of the staff in Jimma and ARDOs has been significantly improved. However, the level of the capacity is not sufficiently high to extend the FMAs to other areas. + Organizational chart is provided in Annex 8. The Oromia Regional Government has set up a PFM unit in order to establish a PFM guideline and promote the approach throughout the Region. * Since Belete-Gera Forest is the Region's property, the responsibility to make all decisions and monitor overall activities rests with the Region and Zone, while Districts are responsible for the implementation of Project activities under the Region's supervision. + Although management capacity of WaBuBs is being strengthened through joint monitoring activities, it needs to be further strengthened.
5-1-2. Deployment of C/Ps	<ul style="list-style-type: none"> • Retaining of C/P who were trained by the project • Necessity and possibility for the increase of C/Ps 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - The transfer of some of the C/P trained in the Project from Seka Chokorsa District to Shabe Sombo District has been delayed; it is difficult to continue Project activities in Belete for the time being. * It remains to be seen whether or not Shabe Sombo District will recruit more staff for the Natural Resource Team and assign them to continue Project activities.
5-2 Financial Aspects				
5-2-1. Financial condition of ARDOs and OARDO	<ul style="list-style-type: none"> • Budget allocation by the Ethiopian Government • Budget allocated to the ARDOs 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	<ul style="list-style-type: none"> - Although additional budget is needed to extend the activities to other villages, it is quite difficult due to the limited financial capacity of the Districts and Region. * The Ethiopian Government is committed to maintaining the Project activities in target sub-villages with its own budget. - The Ethiopian side may not be able to finance the maintenance of the equipment including vehicles and motorcycles provided unless the Project is extended.

5-2-2. Revenues from RFFA	<ul style="list-style-type: none"> • ARDOs' future perspectives on revenue-sharing in RFPAs 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	* The current administration of Oromia Regional Government does not have intention to extract revenues from natural forests, giving the conservation of natural forests the highest priority.
5-3. Technological Aspects				
5-3-1. Progress of technology transfer	<ul style="list-style-type: none"> • Technical level of C/P • Government's capacity of planning, implementing and evaluating WaBuB approach. 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	- Although C/P's technical level has significantly upgraded, it needs further strengthening. According to C/P, apart from managerial and planning skills, the skills for how to facilitate, how to approach and how to communicate with local people need to be further developed.
5-3-2. Utilization of provided infrastructure, machinery and equipment	<ul style="list-style-type: none"> • Maintenance plans including budget • C/P's capacity for utilization and maintenance of GIS equipment 	<ul style="list-style-type: none"> • OARDB • ARDOs • Experts 	<ul style="list-style-type: none"> • Review of materials • Interviews 	- C/P do not have sufficient technical capacity to utilize GIS equipment provided.